郷土を語り
人々の輪が拡がる

東京奈良県人会だより

創立120周年記念号（34）

TOKYO NARA HUMAN NETWORK NEWS　NO. 34

120周年シンボル「蘖」

【「蘖（ひこばえ）」120年の年輪からの新たな芽吹き】
120年の年輪を刻んだ大木から、新たな芽が萌出る。120年の歴史を糧に、若者が生まれ、新しい未来を切り拓く。

目次

ご挨拶…… P 2
　荒井知事…… P 2
　西会長…… P 2
創立120周年記念コンサート …… P 3
ご報告：「東京奈良県人会若手の会」…… P 9
創立120周年記念特別寄稿 …… P10
東京奈良県人会の法人化について…… P22
資料：「東京奈良県人会120年のあゆみ」…… P23
ふるさと奈良の集い…… P46
平成26年賀詞交歓会 …… P47
奈良まほろば館からのお知らせ…… P52
ふるさとコーナー…… P53
　斑鳩町…… P53
　生駒市…… P54
参与会・お知らせ…… P55

奈良県知事　荒井正吾

東京奈良県人会が創立120周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴会は、明治26年に「東京大和会」として発足以来、激動する時代の中を幾多の困難を乗り越えながら、郷土奈良県の発展と繁栄に大きく寄与してこられました。これも歴代会長をはじめ会員皆様方の並々ならぬご尽力によるものと深く敬意を表する次第です。

我が国は戦後、めざましい発展を遂げ、世界の中で確固たる地位を築いてまいりました。そして、現在はいわゆる成熟社会を迎え、多分野にわたる様々な課題を抱えております。これらを解決し、よりよい国となるためには、地方の活力が大切です。

本県では、1300年を超える悠久の歴史のなかで脈々と息づき、豊かな歴史と伝統文化を培ってきた叡智と活力である「やまとぢから」を県政発展の原動力として、鋭意諸施策を推進しているところです。おかげさまで、企業誘致、地域医療、消防広域化などの分野で成果が表れてまいりました。引き続き、「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ことを県政の目指すべき目標とし、その実現のため、今後とも精一杯取り組んでまいりたいと思います。

このような取り組みを進めるためには、様々な分野で活躍されておられる県人会の皆様のお力添えが欠かせません。奈良県の更なる発展のため、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、120周年を迎えられた東京奈良県人会の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、祝辞といたします。

東京奈良県人会会長　西与吏郎

東京奈良県人会は、ここに創立120周年を迎えることができましたこと、ひとえに皆さまのご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

思えば県人会は明治26年10月高取出身の山田三良氏、後の日本学士院院長により「東京大和会」を結成しました。上京するには大変な時間を要した時代、多くの郷土出身者にとって県人会は苦難を支え、喜びを分かちあう心のより所でありました。昭和37年に会長は木村篤太郎氏に引き継がれ郷土を深く思う心から「郷土を同じくするものすでに10年の知己」であると同郷の人達の交流を奨励し大勢の県人達が集うようになりました。

その後、会長四代にわたりこの志を受け継ぎ今日に至っております。主な活動は、新年会、総会、参与会や郷土の文化について寺社はじめ様々な分野の方を講師にお招きしての文化交流会、そして故郷を訪ねる郷土訪問旅行などです。最近では若手の会も発足し、活発な活動を展開しています。

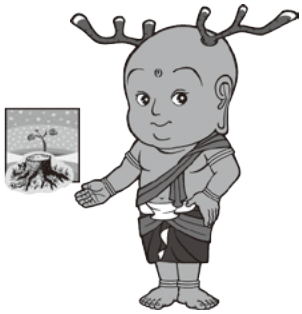
また、この120年の間培った交流の輪を更に発展させ後世に伝え続けるため、従来の任意団体でありました組織の在り方を研究し、一般社団法人への衣替えを検討しております。

当会を120年の年輪からの新たな芽吹きである「蘖（ひこばえ）」に見たて、120年の歴史を糧に多くの先人達のふるさとを思う心を大切にし、県人会の未来に向かって努力してゆく所存です。どうか今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。

【「蘖(ひこばえ)」コンセプトとは】

「120年の年輪からの新たな芽吹き」

混迷の今、我々は過去の歴史を見つめ直し、『未来のあるべき姿』を思い描いて行動する必要があります。そのような中、東京奈良県人会は創立120周年を迎え、120年の歴史（年輪）を振り返り、新たな未来を創造する節目（芽：蘖（ひこばえ））にあるといえましょう。この未来を描く絶好の機会に、世界をリードする若手奈良県人の活躍に焦点を当て、東京奈良県人会の新たな門出を祝います。



東京奈良県人会創立120周年記念コンサート

― 120年の年輪から新たな芽吹き ―

昨年10月28日、東京奈良県人会は、東京第一ホテルにて奈良県と共催しました「ふるさと奈良の集い」に合わせ、「120周年記念コンサート－120年の年輪から新たな芽吹き－」を開催しました。奈良県出身で今最も注目される若手チェロ奏者で東京交響楽団首席チェリストの西谷牧人氏を中心に、弦楽アンサンブルには奈良県出身東京藝大卒業生・在学生を集め、奈良から巣立った若い才能の豪華な共演です。

今回の特別号では、コンサートでの西谷さんの演奏曲の解説やアーティストのコメントをご紹介し、当日のコンサートの雰囲気を再現します。またこれに続き、「東京奈良県人会若手の会」活動報告の概要をご紹介します。

□120周年記念コンサート

【アーティスト・プロフィール】

西谷　牧人
（チェロ：にしや まきと）

奈良市立二名中学校、県立奈良高校を経て東京藝術大学及び米国インディアナ大学にて研鑽を積む。帰国後は指揮者の佐渡裕氏率いる兵庫藝術文化センター管弦楽団に第一期生として入団、2008年より東京交響楽団首席チェロ奏者及び東京藝術大学非常勤講師を務めている。
（奈良市出身）

中村　恵美子
（ピアノ：なかむら えみこ）

幼少期を奈良で過ごす。4歳よりピアノを始め、ピアニストの松岡三恵氏、音楽評論家の石井宏氏のもとで、プライベートに音楽を学ぶ。東京大学大学院ドイツ語ドイツ文学科修了。創薬の仕事に携わる傍ら、ピアノの練習に励み、欧米各地のワークショップに参加し研鑽を積む。今夏はカリフォルニア州2都市での東日本大震災復興チャリティコンサートにて演奏。
（桜井市出身）

中野　萌恵
（ヴァイオリン：なかの もえ）

4歳よりヴァイオリンを始める。天理市立南中学校、県立奈良高校を経て、東京藝術大学音楽学部ヴァイオリン専攻卒業。草津国際音楽アカデミー、ヴァインハイム国際音楽アカデミーにてマスタークラスを受講。2012年Plezi Quartetの2ndヴァイオリン奏者として、渋沢資料館、旧東京音楽学校奏楽堂でのコンサートで演奏。これまでに乾昌子、岩谷悠子、玉井菜採の各氏に師事、また、室内楽を玉井菜採、河野文昭、佐々木亮、山崎伸子、柳瀬省太の各氏に師事。
（天理市出身）

小川　響子
（ヴァイオリン：おがわ きょうこ）

橿原市立橿原中学、県立畝傍高校を経て、東京藝術大学3年在学中。第60回全日本学生音楽コンクール　ヴァイオリン部門中学生の部大阪大会第1位、全国大会第2位。2012年、第10回東京音楽コンクール弦楽部門第一位および聴衆賞受賞。これまでに、新日本フィル、東京フィル、神戸市室内合奏団他と共演。JTが育てるアンサンブルシリーズに出演。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀に参加。現在、漆原朝子、原田幸一郎の各氏に師事。
（橿原市出身）

島岡　智子
（ヴィオラ：しまおか ともこ）

私立天理中学、同天理高校を経て、東京藝術大学卒業。平成5、6、7年度「MBSこども音楽コンクール・中学校重奏の部」第1位。文部大臣奨励賞を3回受賞。その後ヴィオラに転向。2006年4月～2007年3月まで放送の、NHK総合「クイズ日本の顔」レギュラーアーティスト。2008年、ストリングスカルテット『calla』のメンバーとして、カヴァーアルバム「In Bloom」をリリース。また浜田省吾、郷ひろみ、AKB48など多くのアーティストとライブ、レコーディング、TV出演で共演。現在ポップスのフィールドを中心に活動しています。
（天理市出身）

伊東　裕
（チェロ：いとう ゆう）

生駒市立上中学校、県立奈良高校を経て、現在東京藝術大学3年在学中。6歳よりチェロを始める。日本演奏家コンクール小学生部門第1位、およびグランプリ受賞。大阪国際音楽コンクール中学生部門第1位。第77回日本音楽コンクール　チェロ部門第1位受賞、及び徳永賞受賞。長岡京室内アンサンブル、関西フィル、日本センチュリー交響楽団、他オーケストラと共演。2011年度ヤマハ音楽奨学生。芸大にて福島賞受賞。斎藤建寛、向山佳絵子、山崎伸子各氏に師事。
（生駒市出身）

【コンサートの模様】

～・～ 演奏 ～・～

エルガー：愛の挨拶

西谷：皆様こんにちは。チェロ奏者をしています西谷牧人と申します。この度は創立120周年記念コンサートということで非常に恐れ多いことと、とても光栄に思っています。本当に西会長はじめ、おめでとうございます。今演奏しましたのは『愛の挨拶』という曲で、文字通り挨拶のようなつもりで弾かせていただきました。僕は今、東京交響楽団というオーケストラで首席チェロ奏者というのをやらせていただいていまして、その空いている時間に母校の東京芸術大学の非常勤講師をやっております。チェロ奏者の西谷牧人と申します。奈良市出身です。どうぞよろしくお願いいたします。

それで今日は、僕を中心にということなんですけれども、奈良出身――奈良から巣立って今、東京に出てきている僕より若い、もっと若い才能豊かな演奏家の人達にたくさん集まっていただきました。これから一人一人と段々増えていきますのでどうぞ楽しみにしていて下さい。

まず最初にピアニストの方をご紹介したいと思いますけれども、中村恵美子さんです。

それでは、今チェロとピアノの曲を聴いていただきましたけれどもあと2曲ほど、この二人でお届けしたいと思います。

チェロといえばというところなんですけれども、チェロで一番有名な曲かもしれません。フランスの作曲家でサン・サーンスという方が書きました『白鳥』という曲を演奏したいと思います。ピアノが奏でる、そのピアノの旋律が湖のさざ波のようなもので、その上をチェロが白鳥で優雅に流れていくという、そういうイメージでお聴き下さい。

～・～ 演奏 ～・～

サン＝サーンス：白鳥

西谷：今日はこのように僕が司会進行として進めていくんですが、出演者の方に全員一言ずつ訊こうかなと思っています。皆さん東京に住んでいてそして奈良出身ということなので、奈良に対する思いなんかを語っていただければと思うんですけれどもいかがでしょうか、中村さん。

中村：私、母が桜井の出身で私も桜井市で誕生いたしまして、ただ、物心つく前に東京の方に越して参りましたのであまり奈良の幼少期の思い出というのも少ないんですけれども、とにかく奈良は大好きな街で、もし私ももう少し長く奈良にいたら、今回お弾きになる他のメンバーの方々のように、芸大に入れるような才能があったかもしれないなと思ったりもします。奈良が好きなので奈良の食べ物も好きで「好きな食べ物は」と訊かれると「柿の葉寿司です」とお答えするようにしています。

西谷：はい、とてもきれいなピアノを弾いていただいてありがとうございます。先ほどチェロといえばということでクラシックの代表の名曲、『白鳥』を聴いていただきましたけれども、もう一曲、最近チェロといえばという曲になったこの音楽を聴いていただきたいと思います。映画『おくりびと』のテーマなんです。映画をご覧になった方もたくさんいらっしると思いますが、主人公の本木雅弘さんがチェロを弾かれ、チェロのかっこよさというのがさらに世の中に出て、とても嬉

しいところです。それを聴いていただきたいと思います。

～・～ 演奏 ～・～

久石譲：映画「おくりびと」のテーマ

西谷：ソロ3曲、聴いていただきました。それでは、もう一人の素晴らしいチェロ奏者をご紹介したいと思います。伊東裕さん、どうぞ。

彼は、私と同じ奈良高校で、今、東京芸術大学の3年生です。彼の細かいことはこの次に言いましょうかね。

とりあえず、チェロ2本という音の響きを聴いていただきたいと思います。今日は色んなタイプの音楽を聴いていただきたいなと思って、幕の内弁当のようなコンサートにしたいなと思っています。今から『見上げてごらん夜の星を』を聴いていただきますが、チェロという楽器は人間の声に一番近いとよく言われています。男性の声の一番低いところから女性の一番高いあたりまでがちょうど同じ音域なんですけれども、それに加えてビブラートで作る音の揺らぎだったりとか、そういうチェロの響きを2本のチェロで聴いていただけたらと思います。

～・～ 演奏 ～・～

いずみたく：見上げてごらん夜の星を

西谷：ありがとうございました。チェロの響き、なかなかいいでしょ、と思っていただけると嬉しいです。

私は今36歳、伊東君は20歳ですから16歳違うんです。こればっかり言うと本人が嫌がるかもしれませんが、日本音楽コンクールという日本で一番権威のあるコンクール、しかもチェロ部門というのは3年に1回しかないんですね。下は15歳から上は28歳くらいまでの人達で争われます。ということは大体芸大の大学生くらいが一番ど真ん中で争う訳ですけれども、そのコンクールで高校1年生で1位になりました。そう4～5年前ですね、それから背が伸びたんじゃないかっていう位の年月ですね。でも当時、私が教えていた芸大の生徒さんなど全員、高校1年生の彼に負かされてしまったんです。それが僕の後輩の奈良高校の1年生ということでそれはそれで嬉しくて、かつ複雑な気分でした。その後東京芸大に入ってきてくれて現在3年生、奈良期待のホープでございますが、そんな伊東君、我が故郷奈良への思いはいかがでしょうか。

伊東：奈良といいますと、よく訊かれるんですけれども、自分でもそんなに奈良の事を知っているわけではないなと東京に出てよく思い知らされています。小学校・中学校くらいまでは色んな場所に校外学習という形で行くことはあっても、自ら観光という形で行ったことはなく、高校に入ると本当に奈良をじっくり見ることなんかなくて、東京に出てきてしまい、東京に出てきて初めて、奈良は昔、日本の中心地だったということでいかに大切な寺とか文化財とかが沢山あるかを思い知らされました。これからそういうのも興味を持って、東京の人や奈良以外の人に説明できる位興味を持って見ていこうと思います。

西谷：ありがとうございます。でもそうですね、あまりにも自然に周りに古墳だったりお寺だったりあると意外と行かなかったり、慣れてしまったりということもありますし、伊東君は生駒市なんですけれども僕は奈良市で、そうなると二人とも奈良県の一番北側ですから、なかなか南の方に足を運ぶことがなくて、すぐ大阪や京都に出てしまうのでこれからもう少し深いところに目を向けようと思います。

それではもう1曲聴いていただきたいんですけれども、チェロ2本とピアノが入ってヘンデルが作りました『2つのチェロのためのソナタ』というものの第1楽章と第2楽章を聴いて下さい。

～・～ 演奏 ～・～

ヘンデル：２つのチェロのためのソナタより第１、２楽章

西谷：それではですね、中村さんはここでお役御免ということでございます。ありがとうございました。

チェロの共演を聴いていただきましたけれども、ここからは更に華やかにどんどんやっていきたいと思います。もういきなり呼んでしまいましょうか。

それではヴァイオリニスト2名と、ヴィオリスト1人、入っていただきます。どうぞ。

～・～ 演奏 ～・～

モーツァルト：ディヴェルティメント（喜遊曲） 作品136より第１楽章

西谷：ありがとうございました。音楽的にも見た目にも一気に華やかになりましたね。

只今聴いていただきましたのはモーツァルトの作りましたディヴェルティメントの作品136というものなんですけれども、日本語でディヴェルティメントというのは喜遊曲というんですね。喜び遊ぶ曲。誰が付けたのかはわかっていないんですけれども、相当昔の時代の方だと思いますが、こういう翻訳の仕方というのはものすごく趣味がいいといいますか、素晴らしいと思います。こういう曲というのはこのようなサロンだったり、それこそお茶を飲みながら、BGMとしてモーツァルトが宮廷のために書いたんだろうと思うんです。まさに喜んで遊ぶ曲なんですね。そういうことを考えますと、例えばオーケストラで一番大きな曲の事をシンフォニーといいますけれども、これは交響曲といいまして交わる響きの曲ですね。沢山の楽器の響きが交わっているという、本当に最初に名付けた人って天才だなと思うんです。もう一つついでに言いますと、ソリストがいてその伴奏をオーケストラで受け持つものを協奏曲といいます。原語でコンチェルトと言うんですけれども、それは協力して奏でる曲と書くんですね。協奏曲というのは競い合うという訳ではないんです。競うのはコンクールだけなんです。

これは協力してソリストとオーケストラと指揮者とそして作った作曲家とが奏でる曲ですね。本当に素晴らしいネーミングだと思います。ちなみにこの協力するという「協」の字というのも力という字が3つ入っていて、指揮者とオーケストラとソリスト――これを言った人は素晴らしいなと思いまして、そのアイディアをそのままいただきました。

ここでまた趣向を変えて、映画音楽などちょっとポピュラーなものを3曲続けて演奏したいんですけれども、ここでやはり一人ずつ声を聞いてみたいと思います。まず、ヴィオラ、島岡智子さんです。あなたにとっての奈良への思いというものが何かありましたらどうぞ。

島岡：私は奈良県天理市出身です。古墳に囲まれたとても長閑なところで育ちました。最近、奈良に年1～2回帰りますといつも、昔は全然興味がなかったのですが、お寺に行ってみたり大仏を見に行ってみたりと今になって楽しんでおります。

西谷：島岡さんは妹さんがいらっしゃって妹さんも芸大を卒業したヴィオラ奏者なんですね。本当は今日、一緒に出てもらおうと思ったんですけれどもどうしても用事があって来られませんでしたが、割とクラシックというよりはポピュラーな分野で活躍されているということで、誰よりも芸能人にたくさん会っていると思います。

次、ヴァイオリンの今3年生ですね、先ほどの伊東君と同級生ですけれども小川響子さんです。

小川：私は橿原市出身でずっとここまで橿原で育ってきました。高校も橿原市内に行っていて、いつも橿原神宮に行く家族です。東京にいるんですけれども、奈良に帰るときに京都駅で近鉄電車に乗り換えたときに「あーやっぱり近鉄電車は安心するな」といつもすごく思っています。

西谷：そしてもう一人、ヴァイオリン、中野萌恵さんです。では一言お願いします。

中野：私は天理市出身で高校は奈良市の方に通っていたんですけれども、奈良市の方でも結構山のほうで、授業中とかに外を見ると夏は生い茂っていて冬は寒く、奈良の独特な気候を感じると奈良に帰ってきたなという風にいつも思います。それが奈良県民の一種の特徴でもあるかなと思っております。

西谷：はい、まだあどけなく初々しい人達の紹介でしたけれども、それでは『八十日間世界一周』『愛の讃歌』これは2つ、映画の音楽ですね。最後にタンゴの『エル・チョクロ－炎のキス』、3曲続けて演奏いたします。

～・～　演奏　～・～

ヤング：映画「80日間世界一周」よりアラウンド・ザ・ワールド

ロウ：映画「エディット・ピアフ～愛の賛歌」より愛の賛歌

ビジョルド：エル・チョクロ（炎のキス）

西谷：どうもありがとうございました。色んな種類の曲を演奏させていただきましたけれども次で最後になります。

奇しくもこうやって奈良出身者を集めようと思ったら全員芸大だったんですね。芸大でみんなクラシック音楽を勉強していますので、やはり最後はちょっと本流といいますか、そこで勝負をしたいな、そこで終わりたいなという気持ちがあって、シューベルトが書きました最高傑作のクラシック史に燦然と輝く名曲がございます。弦楽五重奏というのは普通はヴァイオリンが2本でヴィオラが2本でチェロが1本なんですね。大体オーケストラでも音が高い楽器の方が人数が多いんですけれども、このシューベルトの曲はチェロが2本あるということでちょっと変わったところが有名なところでもあります。シューベルトという人はウィーンの方なんですけれども、それこそコンサートホールでのコンサートというよりはこのようなサロン、あるいはこの後用意されているパーティーのようなところで演奏するような、演奏者と客席が非常に近くて同じ空間を共有するようなそういうサロンのために沢山の曲を書きました。歌曲が特に有名なんですけれども、ただそういうサロンのために書いたという、しかもたった5人で演奏されるという割には大宇宙のような本当にスケールの大きな作品も沢山残しています。この曲は亡くなる2ヶ月前に書き上げて本人もその演奏を聴くことが出来なかったという晩年の名作です。また、シューベルト

という人は、晩年といっても31歳で亡くなっているんですね。僕も31歳を超えたときには少しショックを受けましたけれども、とうとうこの曲が年下になってしまった、みたいなことを思いましたが、この名曲を今になって弾けると我々もとても嬉しいですし、それがまた、奈良つながりで演奏者もお客様も皆奈良という特別な環境の中で弾かせていただけて光栄に思います。

今日のプログラムの後ろにもちょっと書いてありましたけれども、「蘖」というのが、シンボルマークなんですね。この年輪――切り株から新しい芽が生えているということで、120年の歴史を糧に若者が生まれ、新しい未来を切り開くということになっていますけれども、このコンサートもお話をいただいたときに、今36歳で僕も若干若手ではありますがさらに若い新しい芽の人達といっしょに音楽を奏でることで、また、しかも奈良というつながりを持って演奏することで少しでも奈良から明るい未来というものを描ければいいなと思って今回企画しました。

短い間ではありましたけれども、このようなコンサートをさせていただけて本当に感謝しております。ありがとうございます。

この曲は本当は全楽章やると40分くらいあるので今日は第1楽章だけなんですが、このような後というのはなかなか軽いアンコールというのは難しいので、これをやってきっぱり終わろうと思いました。言い訳ではなくこれが本当に最後です。今日はどうもありがとうございました。

～・～　演奏　～・～

シューベルト：弦楽５重奏曲　作品956より第１楽章

～・～　花束贈呈　～・～

植嶋（当会副会長）：ありがとうございました。西谷さんはじめ皆さんの演奏はもちろんのこと、西谷さんの軽妙なMCには司会者も脱帽です。先ほど西谷さんにもご紹介いただけましたように大木から芽吹いた「蘖」、若い芽がこれから大きな木に育って、きっと豊かな実りをつけて旅人ののどの渇きを潤したり、疲れを癒す木陰を作ってくれたりすることと思います。今日6名の方に代表されます奈良の若者達、まさに120年の大木から芽吹いた、「蘖」に大いに期待したいと思います。是非これから東京奈良県人会、この6人にあやかって発展したいと思いますので、よろしくどうぞお願いいたします。

□ご報告【東京奈良県人会若手の会】

「奈良フェスタ　in　上野公園」を振り返って

この度は、皆さまのご支援のお蔭で無事、奈良フェスタを終えることができました。心よりお礼申し上げます。

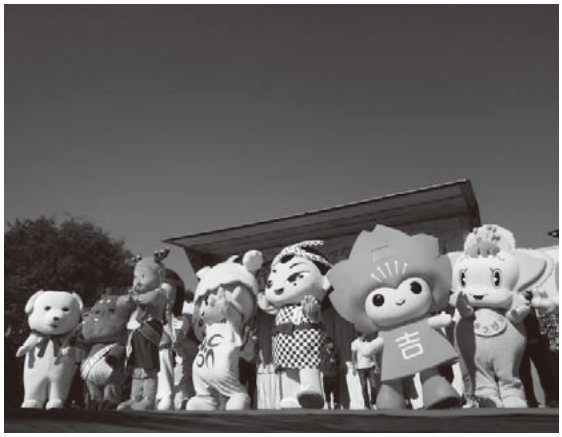
さて、今回、東京奈良県人会の若手を中心に、「故郷奈良のPRと県人会の発展」ために何かできないかと、1年前にスタートしたものの、初めてのイベント企画であり、かつ現役世代で本業との掛け持ちのなかで準備してまいりましたので、大会前日まで準備に奔走する状況でした。そんな中でも大会ホームページや多くの印刷物、警備のイロハ等、異業種の集まりでこその知恵が随所に発揮できたと思います。

実際に、当日には晴天恵まれ多くの方にご来場（概ね3万人）いただきました。特に「ゆるキャラステージ」は大盛況で、おおいに郷土奈良の情報提供ができたようです。また、鹿せんべい飛ばし大会においても300名を超える方にご参加いただくことができ、優勝者は26メートルを記録した小学生に送ることができたことも、大会が盛り上がった要因ではないでしょうか。

一方、物産展は完売する商品も相次ぎ、参加いただいた市町村からは、「奈良県でイベントするのとは桁違い」「今年新しくできた公式マスコットキャラクターも併せ、存分にPRできました」等、効果も高かったようで、是非、次回も参加したいとお声もいただいております。

最後に今回のイベントに際しましては、奈良県東京事務所を始め多くのボランティアスタッフのご協力にも感謝を表しますとともに、今後とも東京奈良県人会、そして若手の会をよろしくお願い申し上げます。

（当会理事　藤本和大）



コンサートで頂いたアーティストや奈良の若者へのメッセージを4回に分け紹介しましょう

「私は五條市生まれで、26歳の時に関東に来て、定年を迎えました。この数年は奈良にもどり、いろんなイベントに参加することが多いです。先日も上野での奈良フェスタは小生の孫をつれてとても喜ばれました。若手の今後に期待したいです。」（瀬岡良雄）

「奈良県を盛り上げる事に努力していただけてうれしくなります。奈良の北、南を問わず頑張っていくことに協力したい。」（北徳次）

〈創立120周年記念特別寄稿〉

□東京奈良県人会若手の会「奈良フェスタ　in　上野公園」を振り返って

前奈良県東京事務所　行政課長　今仲　進（ステージ担当）
（現　知事公室　国際課　課長補佐）

ステージでは、①「奈良のご当地キャラ大集合」、②「せんとくんショー（せんとくん、YAMATO超人ナライガーのブラックス将軍）」、③国宝興福寺仏頭展関連イベント「奈良タイムマシンにお願い」（キセキのホトケ様　紙芝居にひたる、「古都1300年の歴史と興福寺」（法相宗大本山興福寺　夛川良俊執事の講話）、「伝統武道のふるさと」演武にひたる（宝蔵院流槍術の演武、柳生新陰流兵法の演武）、④自治体によるPRを開催いたしました。

前々日の打ち合わせで、①「奈良のご当地キャラ大集合」と②「せんとくんショー」は、「せんとくんショー＆ご当地キャラ大集合」として、一体で開催することとなりました。急な対応でシナリオが無い中にも関わらず、ブラックス将軍役の田辺秀行さんのアドリブのきいたユニークな会話と演出で、せんとくんの機敏なダンスやボランティアスタッフによるゆるキャラのかわいさが映え、会場が超満員になるほどの人気を博しました。

日本経済新聞社の持込催事となった「奈良タイムマシンへのお願い」（紙芝居、講話、宝蔵院流槍術の演武、柳生新陰流兵法の演武）は、興福寺仏頭展に併せた企画だけあって、奈良の歴史に触れ体感できる演出がとても好評でした。

自治体PRは、キャラクターショーのなかでも実施するとともに、宇陀市がウッピー、斑鳩町がパゴちゃん、下市町がごん太くんといったキャラクターとともにふるさとのPRを行いました。

ボランティア参加ながら、奈良の古代衣装を身にまとい、ステージ全般のMCを努めてくださった松尾典子さんの進行は、実に華やかでステージ内容の格をあげるほどの効果となりました。

森田　文子（ゆるキャラ担当）

「奈良フェスタin上野公園」は10月13日とは言え、青空で半袖で過ごせる暑い日でした。奈良県東京事務所の山口篤志リーダーの下、ゆるキャラ班の発動を報告致します。「せんとくん」を筆頭に他10体のゆるキャラ達は本当によく頑張りました。最初、歩くことからはじめ、1回目は階段が危険でステージの上に上がれなかった子も、2回目以降、根性でステージに上がり、キレのいい踊りを見せてくれました。30分以上活動出来ない宿命の中、どの子も積極的に時間を作って、会場を練り歩き握手や写真撮影をして、観客とほのぼのした交流を持ちました。ゆるキャラは子供も大人もみんなをニコニコ笑顔に、幸せな気分にしてくれます。心優しきゆるキャラ達のおかげで、奈良ファンが増えたと思います。「今日一日で、『カワイイ』って、一生分、言われました。」と吉野ピンクルちゃんの弁。因みに私は、王寺町雪丸君を誘導させていただきました。で、その日より非公認雪丸君マネージャーを名乗っております。

志野　浩史（鹿飛ばし大会担当）

若草山の名物行事である「鹿せんべい飛ばし大会」を上野公園で再現し、首都圏の方々に「奈良」に親しんでもらいました。開催にあたっては、奈良若草山観光振興会のご協力のもと、競技用鹿せんべいや立て看板等を奈良より運び込んだほか、奈良市観光協会のご協力を得て、司会に「ミス奈良」の山口実可子さんをお迎えし、本家さながらの雰囲気のもとイベントを行うことができました。また、大会運営には、奈良県東京事務所職員、県人会メンバーとそのご家族の方々を中心に、20名ものボランティアの協力を得る大イベントになりました。この結果、競技の参加者も300名を超え、子供から大人まで幅広い年代の方々に、スポーツを通じて「奈良」に親しんでもらうことができました。

優勝者は、つくば市からご来場の小学生で、平地にも関わらず26メートルの好記録をたたき出し、大きな歓声が上がりました。イベント終了後には表彰式を行い、上位5位入賞者にはせんとくんから表彰状（岡村印刷㈱ご提供）が授与され、副賞として木箱入りの三輪そうめん（㈱三輪そうめん山本様ご提供）ほか、豪華景品が贈られました。特に、優勝、準優勝者には「三笠ホテル」のペア宿泊券が贈られ、入賞者やその家族が奈良県を訪れるひとつのきっかけになるイベントにもなったのではないかと自負しております。

松岡　昇司（物産展担当）

参加市町村による特産品を販売するまほろばマーケットでは、五條市の柿・柿の葉すし、宇陀市の粥・せんべい、斑鳩町のらほつ饅頭、三宅町の革製品、王寺町の手ぬぐい、大淀町の梨・番茶、下市町の箸、奈良まほろば館の大和野菜を販売しました。特に五條市の柿・柿の葉すしが午前中で完売するほどの大盛況でした。天気が良く想定していた以上のお客さんの入りで、東京では奈良県の特産品の販売機会が少なく東京の人に奈良県の特産品をピーアールする良い機会になったのではないかと思います。

東京奈良県人会賛助会員　㈱奥村組
村上　幸彦（会場設営、安全対策担当）

平成22年4月より東京に単身赴任中であった私に、小・中学校の旧友である藤本さんより県人会若手会のお誘いを受けたことがきっかけで、このイベントに参加させていただきました。メンバーのなかでは年配の部類に入る私に何ができるのかを考えたところ、職業柄、会場の設営、イベント中の安全対策が適任と思い従事させていただきました。職業も年齢も違う方々と、議論や考察を重ね助け合いながら閉会を迎えた瞬間、今までに経験したことの無い感動と達成感を味わえました。これは、藤本さんと今仲さんのリーダーシップの賜物であると思います。この奈良県人会と県人会若手の会が永遠に継続される事を期待し、次回のイベントを楽しみにしています。

□120周年記念コンサート　演奏者

チェロ
西谷　牧人

東京奈良県人会120周年という大きな節目に記念コンサートを開催させて頂き、大変嬉しく、また光栄に思います。コンサート当日は、そこが東京という場でありながら、運営、企画、出演者、そして聴衆の皆様に至るまでが全て奈良人というなんとも不思議な感覚、そして同郷の者同士の温かさのような感覚にも包まれ、特別な思いで奏でるコンサートになりました。また、今回は奈良出身の若手の演奏家の皆さんとの共演の機会を持てたことも、私にとっては本当に嬉しい事でした。奈良には常設のプロの楽団も音楽大学もありませんが、それでも優秀な音楽家がどんどん生まれてきています。今回のコンサートで、少しでもその片鱗を県人会の皆様に聴いて頂くことが出来たのは、意味のあることだったと私は思っています。

私自身18歳まで奈良で過ごしましたが、その後奈良を離れて今年でちょうど18年。30代も半ばになって親にもなり、さすがに奈良で暮らしていた10代の頃とは精神的にも変わってきて、今頃になって奈良特有の落ち着きのある悠久の趣に気付き始め、同時に大変な魅力を感じています。また最近になって地元奈良でのコンサートの機会が増えてきたお蔭で、奈良の聴衆の方々と接する機会も増え、京都とも大阪とも違うほのぼのとした人柄に毎回心が和んでいます。演奏にはその人の人柄がそのまま表れるものですが、その人柄を形成する上で自分が育った故郷が影響しているのは言うまでもありません。

今後もいろんな分野でたくさんの優秀な人材が奈良から飛び立つことでしょう。そんな若手の皆さんには、どんどん世界を目指すとともに、自分の心の根底にある故郷の存在を忘れないで欲しいものです。今の私の夢の一つは、まだ行ったことがない奈良の名所（たくさんあり過ぎて困ります、まだ法隆寺にすら行けていないのです）を一つずつゆっくり訪れる事なのですが、仕事に育児に追われる毎日。あと10～20年は無理そうです。

ピアノ　中村　恵美子

私はおやつと同じくらいピアノが好きな子供でした。小学校、中学では、合唱の伴奏をしたり、みんなで遊ぶ合奏の編曲をしたり。高校の時、ピアニストの松岡三恵氏と、ご主人で音楽評論家の石井宏氏に巡り合い、初めて、本当の音楽と目指すべき高みを知り、米国留学に向けて訓練を始めました。そんな中、ある年下の少女の演奏を聴き、越え難い天性の差というものがあることに愕然とし、以降、ピアノに向かえなくなりました。その後、創薬の会社に就職し、年月が経ちました。

一昨年、妹がハワイの青年と結婚することになり、どうしても式でピアノを聴きたいとせがまれました。断りましたが、断りきれませんでした。長いブランクを埋めようと必死に練習し、そしてハワイ島のビーチでの結婚式の晩。妹は輝くように美しく、私も幸福を分けてもらったように幸せで、現地の参列客はとろけるような笑顔でした。私は、波の音と温かい風に包まれた、夢のような夜にピアノを弾きました。ただただ、新婦のために演奏したあの10分に、ピアノを弾けることの喜びが、体中に蘇りました。涙が流れても足りない、幸せな時間でした。

今は、仕事を続けながら、病院で患者さんに聴いていただいたり、チャリティリサイタルを開催したりしています。また皆様に聴いていただける日が来ることを夢見て、精進いたします。

ヴァイオリン　中野　萌恵

私は学生時代部活動に所属していませんでした。ヴァイオリンが、家で取り組む部活動のようなもの。努力してきたことと言えば、早く帰宅すること。それだけでした。エナメルバッグを抱えてローファーで奈良の通学路を駆けていました。今も知らない曲や勉強することは山ほど、“努”の字のまだ1画目です。学校でペンを持つ自分と、家でヴァイオリンを持つ自分。両立が苦手なゆえに、2つの世界で生活していると私はどちらかの世界のことで頭がいっぱいになってしまうので、今まで努力してきたというよりも意識し続けてきたことがあります。それは、『たくさんの人と繋がりを持つこと』です。中学・高校では生徒会に所属し、自分の周りに溢れる優秀な友達や先生方とたくさん話し、学校の行事などは全てきっちり楽しみました。勉強の大変さを知る為に、試験期間もしっかりもがきました。

この掟のお陰で、私は音楽業界のみならず幅広い世界で活躍している人達と、深い人間関係を築き、世界観を拡げる楽しみを知りました。

ヴァイオリン　小川　響子

私は、幼稚園から高校まで、橿原市内で学生生活を送りました。特に高校は、歴史ある校舎で友人とたくさん語り合って楽しんだり、勉強をしたり、進路のことで悩んだりと、たくさんの思い出が詰まっています。今は東京藝術大学で学んでいます。残された学生生活を有意義に過ごし、自分の表現したい音楽や、音色、音質などを貪欲に追求していきたいと思っています。明確な目標はまだ模索中ですが、聴いてくださった方、一緒に演奏してくださった方から、ぜひもう一度聞きたい、一緒に演奏したいと思ってもらえるような演奏家を目指したいと思います。

ヴィオラ　島岡　智子

私は母の意向で、幼少期からバイオリンを始め色々な習い事をしてきました。そのせいか『習い事』自体が好きになり、気分転換にもなるので、今は仕事の合間にゴルフスクールに通ったりしています。昨年は勉強の甲斐あって、飲食系の資格では最難関と言われている『ワインエキスパート』（飲食業だとソムリエにあたります。）を取得することができました。本当に嬉しかったです。スクールで違う分野の沢山の人に出会い、お友達になって楽しい時間を過ごす事で、それがまた自分の音楽にも繋がり、仕事を頑張る糧になると私は思います。これからも仕事も趣味も、やりたい事に全力で向かいたいと思います。

チェロ　伊東　裕

僕は奈良県生駒市生まれで、6歳でチェロを始めました。母と三つ上の姉がヴァイオリンをしていて、僕もヴァイオリンを弾きたかったのですが、母の勧めでチェロをすることになりました。チェロを弾くことは好きでしたが、練習は嫌いでした。音楽の道に進むことを決めたのは高校に入ったあとだったので高校は普通高校に、そして中学・高校と部活でスポーツをしていて、チェロは二番目三番目の状態でした。今は、東京芸大で、音楽が中心の生活ですが、音楽の知識の無さや足りない部分など、次々と課題が出ています。出来る限り色んなことに挑戦したいと思っています。今回、西谷先生やプロの方と共演させて頂き、また奈良県人会で演奏させて頂き、奈良のつながり感じました。これからも人との出会い、つながりなどを大切にしつつ頑張って行きたいと思っております。

□養徳学舎

奈良県人寮養徳学舎からNARAを思う

養徳学舎幹事長
東京大学法学部3年
波多野　昂也

東京奈良県人会創立120周年おめでとうございます。養徳学舎がこうして活動できるのも、奈良県ならびに東京奈良県人会の皆様の多大なるご支援のおかげです。この場をかりて、御礼申し上げさせていただきます。

平城遷都1300年であった平成22年に建て替えられたばかりの養徳学舎は、外観は全く様変わりしたものの、自治寮たる養徳学舎の伝統は脈々と引き継がれています。寮の運営は、寮生によって構成される自治会によって行われ、奈良出身という共通のバックグランドを持つ、様々な大学に通う男子学生40名ほどによる共同生活によって、学年間の絆、先輩と後輩との間の絆が育まれていきます。

私自身、高校2年生のときに奈良に引っ越ししてきたため、当初は奈良に対する愛着はあまり強くありませんでしたが、養徳学舎に入って、奈良出身の学生と一緒に共同生活していくことで、初めて奈良県民としての自覚が芽生えました。さらに、奈良を離れて東京に住むことにより、今まさに奈良の素晴らしさを実感しているのです。そして、奈良県民として、奈良に貢献していく必要性を強く感じています。世界遺産をはじめとする観光資源に恵まれているにもかかわらず、世界での「NARA」の知名度は京都や大阪に比べるとまだまだ低いのが実状です。「NARA」は鹿だけではありません。私たち奈良出身の若者は、今後もっともっと世界に「NARA」を発信し、世界中から「NARA」を訪れるひとを増やしたいと思います。その最大のチャンスが、外国人観光客が2000万人にものぼると予想される、2020年の東京五輪です。外国人観光客を東京近郊にとどめるのではなく、「東京から奈良へ」をスローガンに、多くの観光客に奈良県に足を運んでもらい、観光業から奈良の活性化につなげていくことができればと考えています。

□奈良県東京事務所

東京奈良県人会120周年に寄せて

前奈良県東京事務所長
増田　義人
（現県土マネジメント部次長）

このたび東京奈良県人会が120周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。明治以来1世紀余に渡りこれまで県人会の活動にご尽力されました先人の皆様方そしてすべて関係者の皆様方に心から深く敬意を申し上げます。

県人会は、各種の交流活動等を通してふるさと奈良を離れ東京圏で生活しご活躍されている皆様方の心の拠り所として存在意義は大きく、今後ともその活動に大いに期待を寄せるものです。

さて2010年は平城遷都1300年ということで奈良県が大いに盛り上がった年であります。県では古事記完成から1300年の2012年から日本書紀完成1300年にあたる2020年までの9年間を「記紀万葉プロジェクト」として、現在様々なイベントを展開しており、今年1月には東京で

首都圏記紀・万葉シンポジウムも開催したところであります。県人会の皆様方にも引き続きご参加、ご支援をお願いしたいと思います。

また県では、日本橋にございますアンテナショップ「奈良まほろば館」におきまして、観光・物産のPRを行ってきております。皆様方のご出身の市町村のPRイベントも定期的に行っていただいているところですので、是非覗いていただけたらと思います。

そして、やはり何事にも人のつながりが大事でありますので、首都圏における人のネットワークづくりに向けまして、本県におきましても平成19年から東京奈良県人会と共催で「ふるさと奈良の集い」を開催して参りました。昨年は10月28日に新橋の第一ホテルで開催し、200名を超える皆様に参加をいただきました。今後とも、ネットワークづくりや情報発信等において互いに共有できる情報は共有し、連携しながらやっていければと思っておりますので引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

どうぞ東京奈良県人会の皆様方がご健勝でありますように、東京奈良県人会がさらなるご発展をされ、そしてふるさと奈良の発展に寄与されますことをご祈念申し上げます。

□会員

奈良県出身の若者に期待すること

東京奈良県人会会員　元養徳学舎　舎監
二村　吉光

私は若き日大変感動を覚えた演説があります。それは、後に小学卒の学歴で総理大臣の椅子を射止めた田中角栄が若干27歳の若さで初めて衆院選に立候補した時の演説であります。

「新潟を豪雪地帯から救うためにはどうするか、私の考えは、新潟と群馬の境にある三国峠を崩す。そうすれば日本海の季節風は太平洋に抜ける。その結果、越後に雪が降らなくなる。崩した土砂は日本海に投入して埋(う)め立て、新潟と佐渡を陸続きにする。これで皆さんは永久に豪雪の被害を受けなくてすむのであります。私が政治家になったら必ず実行いたします。」……若干27歳の青年がこのようなスケールの大きな演説を大衆に向って放つ、この堂々たる威風に圧倒された次第です。

そして、これこそが、未来を語り、夢を語る青年のあるべき姿ではないでしょうか。昨今、マスコミ等で「近頃の若者は下流志向で覇気が無い」と屢々報じられております。

私はその様な若者に、かつて同世代の若者が大志を抱いて、このようなスケールの大きな夢を語っていたと云う史実を学んでほしいと思います。昨今の若者に下流志向が見られるのは何故なのか、作家の林 真理子氏は自ら「野心のすすめ」を著し、その文中にこう論述しております。「今の若者に覇気が見られないのは野心が無いからだ。何事か成さんとする野心を持たなければ、若者は生涯、三流の人物で終ってしまう。一流と三流の差は正に、野心即ち志の差である。須(すべから)く若者は大志を喚起して難局に立ち向い一流人物に為(な)られんことを」と。飜(ひるがえ)ってわが奈良県出身の若者やいかに！　いささかでも省みて下流志向の感ありとせば、奮起一番、自らの志に点火し、その灯火を全日本の覇気なき若者に供与していただきたい。日本国のルーツと言われている大和の国(奈良)は、又、大志のルーツでなければならないと思います。いずれにしても今後の奈良県、ひいては日本国を発展せしむる者は正に若者みなさん以外に無いのですから。

創立120年を機に県人会や若者に思うこと

東京奈良県人会　副会長
植嶋　平治

いつまでも若いと思っているうちに還暦をむかえてしまい、ついにおじいちゃんになってしまった自分を、鏡を前にしてしみじみと見る。頭は白髪、目はしょぼしょぼ。職場のカラオケでは部下の歌う歌が早口で聞き取れず、やたらうるさく聞こえてしまう。昔は良かったって思う事はないものと決め込んでいたが、最近やたらに小学校、中学校、高校のころを懐かしく思い出す、そう奈良の生駒に住んでいた頃だ。通った生駒台小学校の校歌に　♪どっしり立った生駒山～♪というくだりがある。教室の窓から見えるそびえたつ生駒の山の向こうに思いを馳せていた少年時代。60年を迎えると心はまたあの頃の少年時代に戻っているような錯覚に陥る自分。故郷を離れ早35年。生駒にいた頃描いていた自分の将来像ってどんなだっただろう。郷土を離れたあの頃、郷土の先輩にもっと早く出合っていたなら人生はもっと豊かになっていたかもしれない。郷土の縁で結ばれた仲間、最近当会若手の会のメンバーと県人会運営について議論する機会があり、頼もしく思った。人口減少の中、これからは高齢者と女性の活躍も必要となってくる。まさに県人会では、120周年を契機に「蘖」精神を前面に打ち出し、組織運営の舵を、若手の方達にも切ってもらうことになった。老若男女全員主役、そんな県人会から新たなものが生まれる予感がする、そんな時代を我々は経験しようとしている。ジェネレーション、ジェンダーを超えた時代の先端を行く組織、東京奈良県人会、そう一緒に何かやりましょう！

東京奈良県人会120周年を迎えて

東京奈良県人会　監事
上田　定博

東京奈良県人会が今年で120周年を迎えることとなりました。会が発足した当時は、経済的にも厳しい不安定な時代に先人達が苦労して県人会を立ち上げ、そうして今日まで引継いで来たその時どきの関係者の熱意と努力に敬意を表したい。これは偏に東京奈良県人会の運営に携わった多くの人達の情熱と、そして一途な熱い郷土愛の賜に他ならない。

縁あって東京奈良県人会に入会して、郷里を同じくする人達との交流ができ、年に数回開かれる会合や講演会に出席して感じることは、故郷を後にして首都圏で活躍している方や奈良県とゆかりのある沢山の人達との交流は、まさに肩肘張らない会員相互の親睦交流を図る場としてとても新鮮であり楽しい。また、ときには出身市町村を同じくする方達との出会いもあり、懐かしく郷里の情報を交換する機会ともなっている。現在小生は、何か少しでもお役に立てればと、県人会監事として東京奈良県人会のお手伝いをさせて戴いている。

県人会の活動のなかで、特に文化交流会等での講演などは、いにしえの奈良に相応しい歴史文化に触れる格調の高い講話も多く、あらためてふるさと奈良を誇りに思うとともに、大変勉強になりいつも楽しみにしている。また、最近は若い会員が徐々に増えてきたお陰で活動も活発になり、昨年は「若手の会」の発案でイベントが企画され、上野公園で「奈良フエスタ」が開催され、奈良の歴史文化に触れる場としてふるさと奈良のPRが盛大に行われた。

東京奈良県人会が今日まで歩んできた120年の歴史の重みをかみしめ、郷土を愛する人達、特にこれからの将来を担う若い人達と共に、この会が益々発展し、更に次の新しい時代に向けて皆様と一緒に充実した楽しい会となれば幸いである。

この10年・思い出すことなど

東京奈良県人会　副会長
木村　忠夫

昨年は120周年――かつて110周年の諸行事に取り組んだことが懐かしく思い出されますが、この10年の間にも、様々な出来事があり、また多くのことを学びました。県人会は、貴重な場であると改めて思います。

そして、多くの方と新たに知己を得ましたが、一方で、何人かの方と残念ながらお別れしなければなりませんでした。

ここでは、「120年のあゆみ」などを見ながら、特に思い出すことなどいくつか記させていただこうと思います。

＊まずは、平成20年11月の郷土訪問旅行でのことです。

一般参加として、小生の旧知の渡邉昭夫様にも参加をいただきました。（そもそもは、渡邉様は、通産省OBですが、県人会で、故中川（輝男）様から、ひょんなことからご紹介いただいた方です）

夜の懇親会の時、同氏は「私の出身地は福島県郡山市ですが、郡山市と奈良市は姉妹提携しているんです。そのもとは、万葉集で

安積香山（あさかやま）　影さへ見ゆる　山の井の
浅き心を　吾が思はなくに

という歌があることです。」として、この歌を巡っての物語――当時の東国と奈良の都との関係を彷彿とさせる話をされました。

万葉集、中でも、防人と東歌に共感を覚える小生としては、また1つ勉強した思いがしたことを懐かしく思い出します。

この郷土訪問旅行の帰りの車中で、バス・ガイドさんから聞いた「タジマモリ（田道間守）」の歌、小生にとっては、歌も、そもそも「タジマモリ」も、初耳でしたが、多くの方が、合唱されていたのには、不思議に感動しました。

（付記）

なお、郷土訪問旅行自体は、小生のような奈良生まれでない者にとっては貴重な勉強・体験の機会であるものの、多くの会員の方にとっては、交通・通信が発達・至便となった現在では、その意義は薄れたとして不要論もかなり聞かれるところであり、今後、その継続の是非、あり方について検討いただければと考えています。

＊また、平成23年2月には、初の「奈良県人会全国大会」が、奈良市で開催されました。（当日の模様は、「120年のあゆみ」とHP「奈良県の写真集」、ご参照）

準備のため度々大阪で開催された運営委員会への参加を通じて、ほとんど存じ上げなかった他県の県人会の方々とお知り合いになり、また、多くのことを学びました。特にどの県人会も、高齢化の状況にあり、それへの対応が課題になっているとのお話を聞き、日頃、あまり意識していなかったことを認識させられました。その後、当県人会においても、「若手の会」がスタートし、活発に活動が進められていることは大変嬉しいことであり、心強く思っております。

＊なお、この間、HPの開設に取り組んだことも懐かしく思い出されます。

かねて、中村（慶）理事が「県人会もIT利用を考えては……」と言われていたのですが、対応能力がなく、如何ともしがたかったのですが、新入会員の藤本氏と中岡氏とから提案があり、平成20年、折からの「115周年記念事業」として実現したものです。HPでのお問い合わせや新

入会も多く、ありがたく思っています。今後、更なる充実が期待されます。

以上、いろいろ記させていただきました。今後、120周年を機に、当県人会もさらに発展を目指すことが期待されますが、最近の状況にかんがみ、日中交流・日韓交流において日本で最も歴史と蓄積を有する奈良県・奈良が、その先導的役割を果たすことを、また、県人会もその中で、何らか寄与できればと願うものであります。

120年の歴史の昭和の思い出

東京奈良県人会　監事
弁護士　菅野谷　信宏

東京奈良県人会（以下県人会という）は、120年の歴史があるが、私は昭和42年に県人会に入会し現在に至っている。昭和42年頃の県人会の役員は木村篤太郎会長以下、北岡寿逸、東季彦、梅谷利治各副会長、中井卓次郎幹事長、辻田清、谷善之丞、松本高情各幹事で元司法大臣、大学教授、大学理事、病院長などそうそうたる方々であった。現在の理事はなく、当時は幹事であった。

県人会の総会は三笠会館本館で開催され、谷社長が県人会には特別価格の会費で提供されたので、当時は最近のような飽食の時代でなかったこともあり出席者は最近の総会出席者より大勢の出席で盛会であった。野村証券の瀬川美能留会長の特別講演もあった。その後、県人会の中に若手会員の若草会が創立され、幹事長に森本修司、幹事に西与史郎、竹原重典、井上順一の諸氏と菅野谷信宏が就任し、県人会の運営を若草会に委かされた。ところが幹事長らの事情もあり、県人会の運営が一時進まない状態になった。このとき現会長の西氏が事実上幹事長の代わりになり、県人会のために尽力され、毎年県人会の総会親睦会を開催し、県人会は活動を続けた。このとき西氏と相談し会場の設定、総会の招集、起案印刷は私が担当し、活動の全般と県人会の総会の招集通知の葉書の宛名書きは、西氏が引き受けられ7年間は続いた。その間県人会の名簿も発行した。各社から手分けして広告を集め寄付をもらい名簿発行ができた。この間に開催された奥野誠亮文部大臣、新谷寅三郎運輸大臣の就任祝賀会には200名近くの出席者があったと記憶している。最初に中川輝男、村井正太郎両氏が幹事に加わり幹事も増え県人会は継続ができた。

その後東京奈良県事務所に県人会の事務所を置くことができ、県から協力を頂き県人会の定款なども整備され、県人会は活動を続けることができた。

以上は古い昭和当時の県人会の歴史の一端であり、現在の県人会の存続は西会長の功績が大きいことに感謝し、私にとって当時の県人会の活動が思い出深いものになっている。

「このようにすぐれた音楽家が奈良県からでていることに驚くとともに、今後ますますのご活躍を期待したく思います。シューベルトの五重奏曲がとてもよかった。」（坂口尚史）

「歴史ある奈良県人としてほこりをもって活躍してもらいたい。」（匿名希望）

120周年に寄せて

東京奈良県人会　理事
鳥居　富美江

日本経済もアベノミクス効果で少しずつ上昇気流……奈良県人会も若手の活躍で活気づいて居ります。

例えば「奈良フェスタ2013 in上野公園」

各市町村のキャラクター11体、宗家宝蔵院流槍術の演武・柳生新陰流兵法演武、普段目にする事の無い光景に観客席は大いに盛り上がりました。又、興福寺夛川良俊執事の講話、紙芝居、特産物の販売などなど3万人の観客を動員する事ができ、奈良県に興味をいだいてもらいPRできたことは、大変嬉しく喜ばしい限りです。

まさか、ここまで若手の会の皆さんと奈良県東京事務所の職員の方々、ボランティアの皆さんがやってくれるとは想像もつきませんでした。このイベントのお陰で県人会入会を希望してくれる方が、特に若い方が増えた事は心強く、今後の活動の間口と奥行きが広がった様な気がします。3年位のサイクルで開催していただけると奈良の歴史も文化も特産品もより多くの方々の心に染み込むのではないでしょうか？

次回お手伝いする事が有りましたら声掛けて下さいませ！

奈良バンザイ、バンザイと叫びたい心境です。

過去5年間で一番インパクトの有る活動だったので「奈良フェスタ」に的を絞ってコメントさせていただきました。

関係者の皆様ごくろう様でした。

東京奈良県人会120周年を迎えて

東京奈良県人会　理事
中村　慶一

東京奈良県人会の前身である東京大和会が結成された明治26年、わが国は国内・国外に向けて背伸びをしていた時代であったと思われます。故郷を出て首都東京で活躍の場を持ち、或いは活躍の機会を求める奈良県出身者は、情報交換・親睦の場として東京大和会のもとに集い、同郷の先輩・同輩・後輩として互いの絆を強め、励まし合っていったことでしょう。その後、大正デモクラシー、経済不況、大戦というような時代を経て、殊に戦後荒廃の時代にあっても、同郷人の心の拠り所であったことは明らかです。

東京奈良県人会に改称されたのは昭和37年で、「もはや戦後ではない」と言われてから数年後。それからも社会の変化すなわち経済の成長、科学技術の振興、交通の発達、通信の便の進展などに伴い、人々の意識や生活パターンにも変化が見られることになりました。県人会への参加具合にも消長があったと伺っています。会長はじめ役員の方々は本当にご苦労されたようです。

その後、県人会としては、その活動にいろいろなイベントを地道に加えていきました。詳細は「120年のあゆみ」に記されたとおりです。

私自身は奈良県出身者ではなく、大阪の大空襲で家を焼かれ京都府相楽郡の地へ逃れてきた身ですが、奈良商工高校の先輩に県人会へのお誘いを受けたこと、曾祖父が奈良市出身であったことなどから、県人会に入会し、いつの頃からか微力ながら理事としてお手伝いをすることになった次第です。随分前のことですが、役員会開催の場の確保に難渋していた頃に勤めている会社の部屋を利用してい

ただいたり、総会などの出席者に会員関連企業や役員が拠出する福引きをお配りしたりなどの時代があったことが思い出されます。

現在、若い年代の人たちが自発的に集い、その創意・工夫と行動力によって、今この時代における県人会の意義を更に吟味し、その意義に沿った活動の具体像を追求すべく、新しい動きを起こしています。県人会の向後の発展に向けて大いに期待されるところです。

東京奈良県人会120周年を迎えて期待すること

東京奈良県人会　理事
藤本　和大

まずは、120周年の催しが無事終えることができ、皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今回、役員で過去のあゆみ等を検証していても、発足の1893年は明治時代で、その翌年に日清戦争が勃発しております。120年とはそれだけ長期の歴史があり、これまで多くの諸先輩方のご尽力があってここまで継続できたのだと、改めて感服する次第です。

さて、今後の東京奈良県人会については、一昨年にスタートした「若手の会」を大きく成長させたいと思います。当初、6人で集まったこの企画も、昨年は奈良県東京事務所のご協力もあって、「奈良フェスタin上野公園」を成功させることができました。このイベントの甲斐あって、今では70～80名のメンバーにまで広まることになりました。

奈良県出身者が集まると、驚くほど共通の話題も多く、少し話しだすと「その人知っている」とか「その場所、親戚の近く」などと、いつも話は大いに盛り上がります。先日も、2014年の第1回の集まりでは、初参加の方を見るなり、「高校時代の友人だ、20年振りだよね」と、旧知の仲を語り合う場面にも巡り合うこともできました。この若手の会に参加していると、「都内にこんなに奈良県出身者がいてビックリした！」「是非、この会を継続して欲しい！」「何か郷土に恩返ししたい！」などと積極的なご意見を頂戴することも事実です。

このように、ようやく若い方が集える場は整備されました。まずは、この若手の会の集まりを継続して行うことで、気軽に集まれる環境を整え、奈良の多くの情報を共有し、一人一人が郷土奈良の情報発信源となり、「奈良ってそんなところもあるの？」「奈良いってみたい」と首都圏に多くの奈良ファンを作りたいと思います。

これからは若手が中心に120年続いている、この「東京奈良県人会」を引っ張っていきたいと心より願っております。

「東京で奈良出身の若者が活躍してくれることを期待しております。京都止まりでなく、是非東京で学んでほしいと思います。このためには保守的なご両親を説得することから開始する必要があるでしょうが、頑張って下さい。」（森本和滋）

「素晴らしいコンサートに出席・参加させて頂いて本当に幸せです。奈良県出身者と言うことで尚、感激です。有難うございました。」（匿名希望）

「奈良は日本の大切な県です。そして自然に恵まれた土地で豊かな人間の心を育ててくれます。これからの新世紀に若い人を育て活躍して下さい。」（匿名希望）

吉野の桜はしろやまざくら

東京奈良県人会　理事
柗本　俊洋

東京奈良県人会120周年誠におめでとうございます。

東京に多くの県人会がありますが、最も歴史と内容のある県人会の一つだとおもいます。

特に最近の県人会の集いに若手の皆様の参加が増え、新しい息吹きを感じています。今後150周年、200周年に向け、奈良県人会に明るい兆しを感じ、西会長の努力が実りつつある事喜びに耐えません、理事の一人として先人が成し遂げて頂いた、奈良県人会を地元奈良県の皆様と一体感を感じながら更に拡大発展に、微力ながら努力して参ります。

さて私が生まれた吉野町喜佐谷は、可憐な花びらで多くの人のハートを魅了する、花の吉野山の麓、喜佐谷(きさたに)に生まれました。

“み芳野の象山（きさやま）の際の木末には幾許も騒ぐ鳥の声かも”　山部赤人

この句に唄われている象山こそ、私が生まれた喜佐谷です。吉野山から宮滝離宮へのハイキングコースとなっていますので是非一度チャレンジしてください。貴方も万葉人になり途中にある桜木神社で一句を！

吉野の桜は白山桜、華やかな中に何処か悲しい悲恋の桜でもあります。源の義経が兄頼朝に追われ武蔵坊弁慶と吉野に逃れ、静御前との吉野での別れは、吉野山の歴史に深く刻まれて 、白山桜が今も可憐に咲き誇る。

西行、芭蕉、後醍醐天皇の南朝（吉野朝廷）、太閤秀吉の桜の宴、多くの歌人や武人が競って吉野を訪れ白山桜と自分を重ねて、日本に生まれて来た自分の誇りと運命を胸深く刻み、しろやまざくらを眺めつつ明日の“気”を授かり、決して諦めなかった後醍醐天皇のように、120年の歴史に深く刻まれた東京奈良県人会を、次の世代にも咲き誇る県人会に、奈良で生まれた事、吉野で生まれた事、生涯誇りをもって県人会に尽くせればと願っています。

「奈良は京都に比べて地味なイメージがあります。でも、その地味さには奥深いものがあるのです。その奥深さを是非アピールしてほしいと思います。同郷の人達のつながりも奥深いです。」（匿名希望）

「奈良県人のアピールが弱いです。こんなに立派な方々がおられるとはうれしいです。ご活躍期待します。西谷先生の説明、クラシックに弱い私にもさり気なく説明ありがとう。なじみある曲もうれしかったです。」（匿名希望）

「アーティスト御自身達が楽しんで演奏なさっているのが伝わり、暖かい気分になりました。今後更に深い音楽になってゆくことを楽しみにしております。Talk も素晴らしかった！興味あるお話でした。」（Y.S.）

東京奈良県人会の法人化について

東京奈良県人会は、明治26年10月に誕生し、大戦など幾多の困難な時代を経ながらも、会員はじめご関係者のご支援により、昨年10月には創立120周年を迎えることができました。

当県人会では、120年間の歴史を重ねることによって、会員の増強や事業内容の充実などが実現してまいりましたが、その運営基盤となる組織は、設立当初から任意団体として維持されてきました。しかし、時代の変遷に適応し県人会のさらなる発展のためには、現状の任意団体から法人格をもった組織への変更が必要となってきました。同様の問題意識が、他の県人会や町内会、同窓会等おいても存在していたことから、去る平成20年12月に「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」が施行され、法人格取得の機会が、株式会社設立手続きとほぼ同様に可能となりました。これを受け、各種任意団体が、社団や財団法人に移行し、この法律の恩恵を受けることになりました。

当県人会におきましても、このような背景から、昨年の120周年を機会に、理事会において法人化の可能性について調査、研究を行い、この度、一般社団法人に組織変更すべく準備に入った次第です。選択肢としては、一般財団・社団、公益財団・社団、ＮＰＯの5通りの法人格を付与される組織がありましたが、人の集まりで事業を行うことから、財団ではなく社団を、また公益社団やＮＰＯでは許認可などで設立時及び設立後にも活動等に制限が生じることから、県人会として柔軟な運営が可能な「一般社団」を最終的に選択することとなりました。

なお、一般社団法人でも非営利事業を主とする非営利型一般社団法人を選択しますので、従来通り事業につきまして課税されません。

当県人会におきましては、法人化により、今までの財産・事業などはすべて新しい一般社団法人東京奈良県人会が引き継ぎ、皆様にご不便をおかけするところはありません。むしろ、法人格を有することにより、契約の主体となることが可能で、例えば奈良県等他機関との連携した事業など、事業の充実を図ることが容易となります。

来る5月28日には現在の任意団体であります「東京奈良県人会」の解散、そして新「一般社団法人東京奈良県人会」の設立それぞれの総会となりますので、皆さんご参加いただくようお願い申し上げます。

【ご参考】

○法務省のＨＰでは、一般社団・財団設立によるメリットとして次の２点をあげています。

・資産を法人名義で取得・登記できるため、権利関係が明確になる

・法人名義の口座開設や法人名での契約が可能となるため社会的信用を得やすい
　代表者が変更したり、死亡した場合でも煩雑な手続きやトラブルを避けることができる。

○一般社団法人化している県人会例
　東京滋賀県人会、群馬県人会連合会、東京福岡県人会

（当会法人化検討ワーキングチーム：植嶋副会長　中村（慶）理事、中村（陽）理事、藤本理事）

資料

東京奈良県人会
120年のあゆみ

目　　次

東京奈良県人会　１２０年略史　25 頁

１２０年のあゆみ　年表　26 ～ 39 頁

資料編

歴代知事・東京事務所長　40 頁

大和健児
（昭和６０年奈良新聞より）　41 ～ 42 頁

第１回郷土訪問旅行催行報告
（一部抜粋）　43 頁

最近の特記イベント　44 ～ 45 頁

（題字は西与史郎会長）

東京奈良県人会　120年略史

東京奈良県人会は、明治２６年１０月に、高取町出身の山田三良氏（後の日本学士院院長）が、「もともと奈良県民は土地柄か結束力が薄い。ここらで一つ纏まろうじゃないか。」と在京の人々に呼掛けて、「東京大和会」（東京奈良県人会の前身）を結成したのが始まりである。

その後、東京大和会がどのような活動を行なってきたのか、詳細は当時の方々がご存命でないので分かりかねるが、現在とは違って、電話も各家庭には設置されていない上、その通話も即時通話どころではなく、また関東から大和までは夜行列車で一日掛かり、その先の県内交通機関も整備されていず、往来に大層な時間を要した時代に、遠く郷里を離れて懸命の努力を重ねていた多くの郷土出身者にとって、県人会は苦難を支え、喜びを分けあって、心の拠り所となってきたことは想像に難くない。

戦後は、東吉野出身の谷善之丞氏創業の銀座の三笠会館で会合を重ね、荒廃の世にあって郷土出身者の心の拠り所としての役割を果たしてきた。

昭和３７年に会長は山田三良氏から、五条市出身の木村篤太郎氏（法務大臣、防衛庁長官等を歴任）に引き継がれ、昭和５７年に逝去されるまで２０年間務められた。特に木村篤太郎氏は県人会会員に対して「郷里を同じくする者は既に１０年の知己である。」として同郷人相互の交流を奨励し、また郷里出身の若者に対する援助を惜しまなかった。

昭和40年代には、県から二人の国務大臣の誕生を祝う祝賀総会を開催するなど、県人会は隆盛を極めた。しかし、高度経済成長に伴う人々の志向の変化もあって次第に会への出席者は減少し、年一回の総会開催すら危ぶまれることもあった。運営事務を担う幹事会も二人の体制となり自腹で運営費を遣り繰りするような努力が行なわれ、そこに会長の資金拠出もあって、今日の県人会へとつながっていった。

その後、大淀町出身の杉本一幸氏（オンワード樫山代表取締役副社長）、木村篤太郎氏女婿の木村剛輔氏、十津川村出身の西与吏郎氏（双美交通専務取締役）、橿原市出身の秋山利郎氏（東洋精糖（株）会長）が、会長として県人会の発展に力を尽くしてこられた。現在は再び西与吏郎氏に会長として再登場いただいている。

現在、首都圏で活躍されている奈良県出身者及びその縁故者をはじめ、奈良での勤務経験者、奈良愛好者など、奈良と何らかのご縁のある方々を会員として、総会、文化交流会、新年会、参与会の開催をはじめ、時々の郷土訪問旅行の催行、年２回の会報の発行などの諸活動を実施している。

また、奈良県と共催の「ふるさと奈良の集い」は、より広いサークルでの交流の場を提供するものである。

平成２０年８月にはホームページを開設し、入会案内や行事のご案内のほか、「奈良面白知識コーナー」を設け、平城遷都１３００年記念として２２年７月に出版した「奈良方言集」をはじめ、「帯解寺の子安地蔵」の由来など１８話を収めた「大和の伝説」、「奈良の難読地名・個性的な読み方の地名」、「姉妹都市・友好都市」を収録し好評を博している。

会員各位の諸活動への積極的なご参加と友人・知己のご紹介を歓迎します。

東京奈良県人会１２０年のあゆみ

年月	東京奈良県人会	奈良県関係	日本・世界
明治２６年 (1893年) １０月	「東京大和会」発足 初代会長山田三良氏就任 (～昭和３７年まで) 山田三良氏胸像（学士会館内） (参考) 明治26年という年 東京奈良県人会の前身である「東京大和会」が結成された明治26年（西暦1893年）は、日清戦争の１年前である。同年には、 １月：日比谷公園完成 ２月：アメリカ・ハワイ併合調印 ３月：弁護士法制定：大阪・神戸間の電話開通 ４月：奈良県出身の津村順天堂創業、「中将湯」発売 ６月：海軍大尉郡司成忠、北地防備の目的にて、同志数十名と共に択捉島に到着 ７月：御木本幸吉、真珠の養殖に成功 ８月：君が代など８曲、祝日大祭日の唱歌として正式発表 というような出来事が記録されている。	• 奈良県設置（明治４年、明治２０年再設置） • 豪雨のため吉野郡十津川村壊滅状況 （明治２２年８月１８日～２０日） • 被災村民２４８９人が北海道空知太へ移住 （明治２２年１０月） • 新十津川村誕生 （明治２３年１月） • 「関東十津川郷会」発足 （明治３０年９月） • 奈良県奨学会設立 （明治３５年） • 「養徳学舎」設立、翌年第１回生入舎 （大正６年） • 全国水平社創立 （大正１１年） • 奈良―大阪上本町間（現在の近鉄奈良線）に電車開通 （大正１１年） • 日本最初のロープウェーが吉野山に開通 （昭和４年） • 南都銀行設立（前身４行が合併） （昭和９年）	• 東京学士会院創設 （明治１２年～昭和２２年、日本学士院と改称） • 大日本帝国憲法発布 （明治２２年） • 日清戦争 （明治２７年） • 日露戦争 （明治３７年） • 第一次世界大戦 （大正３年～７年） • 国際連盟加入（常任理事国） （大正９年） • 関東大震災 （大正１２年） • 世界恐慌（昭和４年～） • 国際連盟脱退（昭和８年） • 日中戦争（昭和１２年～） • 第二次世界大戦 （昭和１４年～２０年） • 日本国憲法公布 （昭和２１年）

年月	東京奈良県人会	奈良県関係	日本・世界
昭和２３年 (1948年) １０月	椿山荘会合	• 奈良県東京出張所設立 （昭和２４年） • 法隆寺金堂が火災 （昭和２４年）	• サンフランシスコ講和条約・日米安保条約調印 （昭和２６年） • 朝鮮戦争 （昭和２５年～２８年） • 自衛隊発足 （昭和２９年）
昭和３２年 (1957年) １１月	山田三良氏米寿、 中川正左氏喜寿大会 （於：学士会館）		
昭和３７年 (1962年)	• 二代会長 木村篤太郎氏就任 （～昭和５７年まで） • 東京奈良県人会に改名	• 伊勢湾台風により川上村高原で６０名生き埋め、死者８０名 （昭和３４年）	• 国連加盟、日ソ国交回復 （昭和３１年） • 皇太子殿下と正田美智子さんご婚約（昭和３３年）
昭和４９年 (1974年)	東京奈良県人会名簿発行	• 県広報誌「県政なら」発刊 （昭和３８年）	• 東海道新幹線開通、東京オリンピック （昭和３９年）
昭和５３年 (1978年)	「奈良県人会基金」設置	• 明日香村の高松塚古墳石室の壁画発見 （昭和４７年） • 県営ダム第１号の天理ダム完成 （昭和５３年）	• ヨーロッパ共同体 （EU）発足 （昭和４２年） • アポロ１１号月面着陸 （昭和４４年） • 沖縄返還・日中国交正常化 （昭和４７年） • 石油危機・狂乱物価 （昭和４８年） • ベトナム戦争終結 （昭和５０年） • 日中平和友好条約調印 （昭和５３年）
昭和５４年 (1979年) １０月	東京奈良県人会名簿発行 （付会則）		

年月	東京奈良県人会	奈良県関係	日本・世界
昭和５８年 (1983年)	• 三代会長 杉本一幸氏就任 （～昭和６１年まで） • 奈良県東京事務所に移転	• 県出身の福井謙一京大教授がノーベル賞受賞 （昭和５６年） • 明日香村キトラ古墳石室に玄武の彩色画発見 （昭和５８年）	• ロッキード事件で田中元首相に有罪判決 （昭和５８年）
昭和５９年 (1984年) ９月	新会則施行、第１回参与会 （於奈良県渋谷寮）	• 「わかくさ国体」開幕 （昭和５９年）	
昭和６０年 (1985年) ４月	「東京奈良県人会だより」創刊		• グリコ森永事件 （昭和６０年） • プラザ合意 （昭和６０年）
昭和６１年 (1986年) ３月	第１回郷土訪問旅行 （吉野、十津川、法隆寺、奈良県庁）	 谷瀬の吊り橋	• 男女雇用機会均等法施行 （昭和６１年）
昭和６１年 (1986年) ７月	四代会長 木村剛輔氏就任 （～平成６年まで）		
昭和６２年 (1987年) ４月	第２回郷土訪問旅行 （今井町、明日香、室生寺、談山神社）		
昭和６３年 (1988年) ６月	第３回郷土訪問旅行 （若草山、東大寺、なら・シルクロード博、信貴山）	 室生寺五重塔	
昭和６３年 (1988年) ９月	第４回郷土訪問旅行 （平城京、東大寺、新薬師寺、西大寺）		• ソウルオリンピック開幕 （昭和６３年） • 消費税法成立 （昭和６３年）

年月	東京奈良県人会	奈良県関係	日本・世界
平成元年 (1989年) ９月	第５回郷土訪問旅行 (伊勢神宮、榊原温泉、伊賀上野、浄瑠璃寺)	• 民族の英知とロマン「なら・シルクロード博」開催 (昭和６３年)	• ベルリンの壁撤去・天安門事件・昭和天皇崩御 (平成元年)
平成２年 (1990年) ４月	第６回郷土訪問旅行 (熊野三山、十津川村、橿原神宮)		• 湾岸戦争・ドイツ統一 (平成２年)
平成３年 (1991年) １１月	第７回郷土訪問旅行 (帯解寺、洞川、大峰山、天川村)		• ソ連解体(平成３年)
平成５年 (1993年) ６月	東京奈良県人会１００周年記念パーティ (於ホテルフジタ奈良)		• 欧州連合条約発効、EU始動 (平成５年)
平成７年 (1995年) ５月 １０月	五代会長 西与吏郎氏就任 (～平成１０年５月まで) 熊野・十津川訪問旅行	• 「法隆寺地域の仏教建造物」が世界遺産に登録 (平成５年) • 県道大和高田御所線「御所玉手～富田」の開通 (平成６年) • 緑の道標「大和路渋谷」の設置－天理市－ (平成７年)	• 阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件、世界貿易機関(WTO)発足(平成７年)
平成９年 (1997年) ５月 １０月 １１月	会員名簿(付会則) 平成９年度版発行 「東京奈良県人会だより」 復刊第１号発行 第８回郷土訪問旅行 (奈良・松尾寺)	• 国道３０９号「関谷トンネル、水越トンネル」開通 (平成９年) • 緑の道標「大和路与喜裏」の設置－桜井市－ (平成９年) • 道の駅「十津川郷」オープン (平成９年)	• 香港、中国に返還 (平成９年) • 地球温暖化防止に向けた京都議定書採択 (平成９年) • 消費税導入 (平成９年)
平成１０年 (1998年) ２月 ５月 １０月	この年より新年会開催 六代会長 秋山利郎氏就任 第１回文化交流会開催 奈良県橿原考古学研究所部長 河上邦彦氏 「黒塚古墳で邪馬台国は決まったか」 黒塚古墳全景	• 黒塚古墳から三角縁神獣鏡などの文化財出土 (平成１０年) • 白川ダムの竣工 (平成１０年) • 台風７号暴風により室生寺国宝五重塔が大破損 (平成１０年) • 「平城京シンポジウム」開催 (平成１０年) • 「古都奈良の文化財」世界遺産に登録(平成１０年)	• 長野冬季オリンピック開催 (平成１０年) 古都奈良の文化財一例 薬師寺

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成１１年 (1999年)	2月4日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「どうなる日本経済と私達の暮らし」 （財）南都経済センター理事長 土谷宗一先生	5月15日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「救急・救命はここまで進んだ」 東邦大学付属病院院長 上島権兵衛先生	10月30日（第2回） (於：ＮＨＫ青山荘) 「奈良の文化と歴史 －最近のふるさと奈良事情－」 帝塚山短期大学名誉教授 青山茂先生	
平成１２年 (2000年)	2月3日 (於：ＮＨＫ青山荘) 懇親会 (特別企画：日本舞踊、落語)	5月21日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「俳句という漢方薬 －五七五の現場から－」 ＮＨＫ学園編集主幹 吉川正光先生	10月21日（第3回） (於：Sum-mi 高松) 「中高年に必要な健康法 －永く楽しく生きるために－」 前群馬大学学長 石川英一先生	11月2日～4日 第9回郷土訪問旅行 (奈良、山の辺の道、橿原、明日香)
平成１３年 (2001年)	2月1日 (於：ＮＨＫ青山荘) 懇親会	5月19日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「身の回りの法律 －相続を中心として－」 弁護士 菅野谷信宏先生	10月20日（第4回） (於：Sum-mi 高松) 「飛不動尊 －空飛ぶお不動さま－」 竜光寺正寶院住職 近藤泰嘉師	 一夜にして大峰山から 江戸のお寺に飛び帰って 来たといわれる お不動さまが御座します
平成１４年 (2002年)	2月7日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「21世紀関西復活 －光り輝く奈良にむけて－」 （財）南都経済センター理事長 柳谷勝美先生	5月18日 (於：銀座高松本店) 「シルクロードと敦煌」 国学院大学教授 土肥義和先生	11月9日（第5回） (於：神田学士会館) 「大仏開眼1250年に想う」 東大寺執事長 上野道善師	

	奈良県	日本	世界
平成１１年 (1999 年)	• 県単一農業協同組合誕生 •「なら燈花会」「バサラ祭り」はじまる	• 東海村で国内初の原発臨界事故 • 新中小企業基本法成立	• 世界人口６０億人突破
平成１２年 (2000 年)	• 奈良いちご「あすかルビー」の種苗登録 • 消防防災ヘリコプター就航	• 森内閣発足 • シドニー五輪開催 • ノーベル化学賞（白川氏）受賞	• プーチン、ロシア大統領に就任 • 国連ミレニアムサミット開催
平成１３年 (2001 年)	• 道の駅「吉野路大淀ｉセンター」開設 •「みつえ高原牧場」開場 • 観光情報提供システム「大和路アーカイブ」稼働 •「県立万葉文化館」開設	• 狂牛病の感染発表 • ノーベル化学賞（野依氏）受賞	• 米中枢、同時多発テロ • 米英、アフガニスタン空爆、地上作戦開始
平成１４年 (2002 年)	•「しごとｉセンター」開設 • ワールドカップサッカー日本大会「チュニジアチーム」キャンプ地招致 •「奈良のうまいもの」選定	• 小泉内閣発足 • サッカーＷハイ、日韓共同開催 • 住民基本台帳ネットワーク稼働 • 小泉首相訪朝 • ノーベル物理学賞(小柴氏)、化学賞（田中氏）受賞	• 欧州統一通貨「ユーロ」開始

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成１５年 (2003年)	2月6日 (於：ＮＨＫ青山荘) 曽我遺跡の勾玉 －貴石の話いろいろ－ 民谷晴亮先生 (参与会員)	5月17日 (於：都ホテル東京) 110周年記念総会・講演交流会 「奈良の明日を語る会」(県との共催) 「県政の歩み・新たな魅力の発信」 奈良県知事 柿本善也様 第五代会長 西与吏郎氏就任	11月16日（第6回） (於：学士会館) 110周年記念（奈良新聞社共催、奈良県･奈良市･橿原市･明日香村・奈良県観光連盟・奈良市観光協会後援） 「オープニングコンサート」 歌枕直美氏 「ロマンあふれる歴史街道」 作家　堺屋太一先生 リレー・トーク「奈良の文化を語る」 司会　文学博士 坂口順治先生 ゲスト 薬師寺管長 安田暎胤師 世界水フォーラム 尾田栄章氏 洋画家 絹谷幸二氏 日本舞踊家 坂本晴江氏 住生総研会長 前原金一氏	6月6日～8日 第10回郷土訪問旅行 (奈良、橿原、高取)

平成15年　リレートーク「奈良の文化を語る」

平成１６年 (2004年)	2月5日 (於：Sum-mi 高松) 「地域の活性－街づくりの話あれこれ」 (株) 地域計画システム代表 椿本雅則先生 (参与会員)	6月21日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「海と船旅」 (株) 郵船クルーズ顧問 森本靖之先生 (会員)	8月27日 (於：Sum-mi 高松) 「ふるさと奈良文化論」 文学博士 坂口順治先生（会員）	

	奈良県	日本	世界
平成１５年 (2003 年)	• 国道１６９号「伯母谷道路」開通 • 県立医科大学付属高度救命救急センター開設 • 「なら産業活性化プラザ」開設 • 「矢田山遊びの森」開園	• 個人情報保護法成立 • 十勝沖地震	• 米英軍、イラク攻撃開始
平成１６年 (2004 年)	• 「南阪奈道路」開通 • 「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録 • 「葛城市」誕生	• 陸上自衛隊、イラク派遣 • 国民年金未納問題 • アテネ五輪（野村忠宏選手柔道金メダル３連覇）	• 鳥インフルエンザ流行 • EU 首脳会議、EU 憲法採択 • スマトラ沖地震・津波

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成１７年 (2005 年)	2 月 3 日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「異常発生予測の花粉症も恐くない」 大前研究所代表 大前巌先生	5 月 28 日 (於：Sum-mi 高松) 「奈良県政の近況と首都圏情報発信基地新設について」 奈良県東京事務所長 川田純央先生	11 月 26 日 (於：代官山ｉスタジオ) 「唐招提寺金堂修復現場からの報告」 奈良県文化財保存事務所所長補佐 植田哲司先生	10 月 15 日 奈良県が 「奈良県代官山ｉスタジオ」オープン
平成１８年 (2006 年)	2 月 3 日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「石舞台とドイツ・ランドシャフトパーク」 彫刻家 坂口紀代美先生 (参与会員)	5 月 27 日 (於：Sum-mi 高松) 「なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか」 シンクタンク・ソフィアバンク副代表 藤沢久美先生	11 月 18 日 (於：Sum-mi 高松) 「飛鳥の考古あれこれ話」 神戸山手大学教授 河上邦彦先生	10 月 20 日～ 22 日 第 11 回郷土訪問旅行（吉野、五条、十津川、熊野古道） 11 月 26 日 「平城遷都 1300 年記念事業への県人会提言」提出
平成１９年 (2007 年)	2 月 8 日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「ＷＴＯ加盟で沸くベトナム産業界の展望」 ＪＥＳＣＯホールディングス（株）社長 柗本俊洋先生 (参与会員)	5 月 26 日 (於：Sum-mi 高松) 「県政だより」 奈良県東京事務所長 川田純央先生	11 月 17 日（第 10 回） 県との共催（於：グランドプリンスホテル赤坂） －ふるさと奈良の集い－ 「藤原光明子は何故皇后になれたか」 東大寺長老　森本公誠師	

蒙古斑を同じくするベトナムの人とは、感情論も儒教も食文化も同じ。
JESCO 進出先では、仕事の仕方は日本のスタイル。すべての会議は日本語で。
社会主義国といっても、実態は資本主義経済と見間違うほど。考え方は非常に柔軟。
女性の社会参加は大変進んでいる。紹介していただいた労働大臣も女性、人口統計大臣も女性、JESCO 進出先の社長も女性。他にも女性社長は多い。

～県人会だより No. 20 より抜粋～

	奈良県	日本	世界
平成１７年 (2005 年)	• 「五條新宮道路十津川道路七色高架橋」開通 • 新生「奈良市」誕生 • 新生「五條市」誕生 • 「県立図書情報館」開館 • 御所浄水場「太陽光発電施設」稼働	• 愛知万博開幕 • 郵政解散 • 総人口、はじめて減少	• 地球環境問題京都議定書発効
平成１８年 (2006 年)	• 「宇陀市」誕生 • けいはんな線(京阪奈新線)開業 • 京奈和自動車道「大和区間」(郡山南～橿原北 IC)、「五條道路」(五條北～五條 IC) 開通	• ライブドア事件 • 安倍内閣発足	• WTO、新多角的貿易交渉決裂・凍結宣言
平成１９年 (2007 年)	• 荒井県政スタート • 「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」世界遺産暫定一覧表に記載	• 福田内閣発足	• 米国、サブプライムローン問題発生 • EU 新基本条約（リスボン条約）採択

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成２０年 (2008年)	2月7日 (於：ＮＨＫ青山荘) 「奈良県経済の現状と活性化に向けて」 (財) 南都経済センター理事長 奥村隆司先生	5月24日 (於：Sum-mi 高松) 「奈良県の文化財及び県政の動きについて」 奈良県東京事務所長 影山清先生	10月18日 － 県との共催 (於：第一ホテル東京) －ふるさと奈良の集い－ 「平城遷都1300年祭」 奈良県知事　荒井正吾様 11月29日（第11回） (於：第一ホテル東京) 「仏像に見る奈良平城京の時代」 奈良大学文学部教授 三宅久雄先生	11月15日～17日 第12回郷土訪問旅行（伊勢、宇陀、桜井、奈良）
平成２１年 (2009年)	2月5日 (於:第一ホテル東京) 「株券電子化のスタートに当たりて」 (株) 証券保管振替機構 経営企画部長 斉藤宗孝先生	5月23日 (於：Sum-mi 高松) 「型染で紡ぐ悠久の都－ベトナムから奈良へ」 京都精華大学芸術学部准教授 鳥羽美花先生	11月28日（第12回） (於：ＮＨＫ青山荘) 「奈良への想い－万葉集と私－」 映画監督　河瀬直美先生	4月 奈良県が 「代官山iスタジオ」に代り 「奈良まほろば館」オープン
平成２２年 (2010年)	2月3日 (於：三笠会館) 「いかにヒット商品を生み出すか －キリンビバレッジ商品開発の裏側－」 阿部経済研究所長、阿部経営塾長 元キリンビバレッジ（株）社長 阿部洋己先生	5月25日 (於：Sum-mi 高松) 「ポスト１３００年祭構想案」 奈良県東京事務所長 上田龍嗣先生	11月18日（於：椿山荘） －平城遷都1300年記念シンポジウム1300年後の今、奈良発展の鍵は－ 東大寺長老　　上野道善様 奈良県立図書館情報館長 千田稔様 シンクタンク・ソフィアバンク 副代表　藤沢久美様 －ふるさと奈良の集い － 県との共催	平城遷都1300年記念 「奈良県の方言」刊行

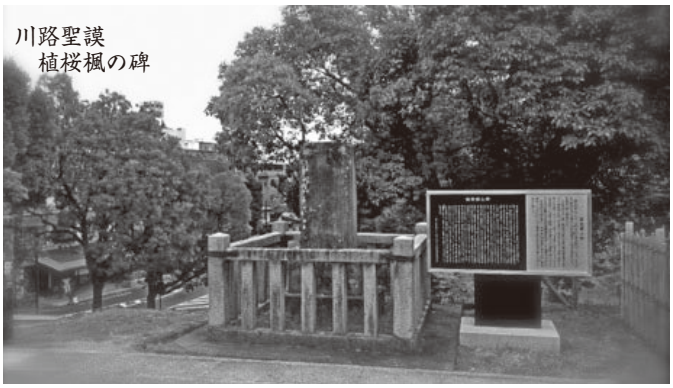
- そもそも、株券の電子化て何や？
- 株券が無効になったら株主でなくなるの？
  →大丈夫、ご安心ください
- 特別口座て、何が特別なの？
  →さまざまな制約があります
- 年金みたいに、メチャメチャなことにならへんの？
  →まずは心配ありません

～県人会だより No. 24 より抜粋～

	奈良県	日本	世界
平成２０年 (2008 年)	• 特別史跡平城宮跡が「国営飛鳥平城宮跡歴史公園」として整備に着手 • うだアニマルパークオープン	• 麻生内閣発足 • ノーベル物理学賞（小林、益川、南部３氏）・化学賞（下村氏）受賞	• 中国四川省で大地震発生 • 北京五輪開催 • 米国、リーマンショック発生、世界同時株安、金融危機
平成２１年 (2009 年)	• 奈良まほろば館オープン（東京 日本橋） • 近畿まほろば総体開催	• 鳩山内閣発足	• 米国、オバマ大統領就任 • オバマ大統領「核のない世界目指す」プラハ演説
平成２２年 (2010 年)	• 平城遷都１３００年祭開催 • APEC 観光大臣会合開催 • 全国都市緑化ならフェア開催 • 平城遷都１３００年記念祝典（天皇皇后両陛下ご来県） • 奈良マラソン初開催	• 菅内閣発足 • ノーベル化学賞（鈴木氏、根岸氏）受賞	• ハイチで大地震発生

長谷寺より

川路聖謨
植桜楓の碑



平成２１年７月参与会　納涼クルーズ

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成２３年 (2011 年)	2 月 3 日 (於：NHK 青山荘) 「平城遷都千三百年祭記念祝典の概要」 奈良県東京事務所長 上田龍嗣先生	5 月 21 日 (於：Sum-mi 高松) 「奈良の魅力と文化的ポテンシャルについて」 尚美学園大学大学院 芸術情報研究科 定平誠教授 「奈良プロモーションビデオ作品」3D 関東学院大学工学部 海老根秀之准教授・ 柳澤富夫講師	1 月 26 日 (於：三笠会館) 「歴史街道へようこそ Touch The Spirit of Japan」 歴史街道推進協議会 企画調整部長 松枝健夫先生	
平成２４年 (2012 年)	1 月 18 日 (於：NHK 青山荘) 「コンサルティング現場こぼれ話」 （株）商工中金経済研究所 常務執行役員 植嶋平治先生	5 月 26 日 (於：Sum-mi 高松) 「奈良県の高齢化の現状と課題」 奈良県東京事務所長 増田義人先生	11 月 9 日 (於：第一ホテル東京) 「ふるさと奈良の集い」 県との共催 11 月 24 日 (於：三笠会館) 「古事記にみる石上神宮」 石上神宮宮司 森正光師	2 月 10 日 第 1 回奈良県人会全国大会 (於：奈良ロイヤルホテル) ９県人会等 約 350 人が参加 全国大会参加及び奈良瑠璃絵鑑賞の後 東大寺大仏殿、 春日大社、 廣瀬神社、 信貴山朝護孫子寺、 龍田神社、 當麻寺、石光寺

平成２４年新年賀詞交換会

	奈良県	日本	世界
平成２３年 (2011 年)	• 紀伊半島大水害 • リニア中央新幹線の整備計画が決定 • ミシュランガイドに奈良のレストランが掲載	• 東日本大震災・福島原発事故 • サッカー女子 W 杯で初優勝 • 野田内閣発足 • 台風１２・１５号被害	• チュニジア政権崩壊・「アラブの春」
平成２４年 (2012 年)	• 中和幹線全線供用開始 • 京奈和自動車道大和御所道路（橿原高田 IC ～御所 IC）開通 • 「記紀・万葉プロジェクト」スタート • ロンドンオリンピックボクシング男子ミドル級金メダル 村田諒太選手　県民栄誉賞表彰 • ムジークフェストなら２０１２	• ロンドン五輪 • ノーベル医学生理学賞（山中氏）受賞 • 安倍内閣発足	• 第４回 BRICS サミット • 第３８回サミット • 第７回 G20 金融サミット • ASEAN 首脳会議「人権宣言」採択

第１回奈良県人会全国大会　乾杯

全国大会　参加者寸景

信貴山朝護孫子寺にて

石光寺
（中将姫ゆかりの牡丹の寺）

歴代知事

（敬称略）

代	年月	氏名
01	明20.11	税所　篤
02	22.12	小牧　昌業
03	27.01	古沢　滋
04	29.12	水野　寅次郎
05	32.02	寺原　長輝
06	36.06	河野　忠三
07	39.07	川路　利恭
08	41.07	青木　良雄
09	43.06	若林　寶蔵
10	大02.06	折原　巳一郎
11	03.04	川口　彦治
12	04.07	木田川　奎彦
13	11.10	成毛　基雄
14	12.10	鈴木　信太郎
15	15.09	別府　総太郎
16	昭02.05	百済　文輔
17	04.08	笹井　幸一郎
18	05.08	小栗　一雄
19	06.05	石黒　英彦
20	06.12	斎藤　樹
21	07.06	久米　成夫
22	09.02	児玉　政介
23	10.01	一戸　二郎
24	12.07	三鳥　誠也
25	15.04	宮村　才一郎
26	15.11	山内　逸造
27	17.07	堀田　健男
28	18.07	沢　重民
29	20.02	小田　成就
30	21.01	小野　正一
31	21.07	野村　万作
32	22.03	谷口　寛
33	22.04	野村　万作
34	26.02	奥田　良三
35	30.02	奥田　良三
36	34.02	奥田　良三
37	38.02	奥田　良三
38	42.02	奥田　良三
39	46.02	奥田　良三
40	50.02	奥田　良三
41	54.02	奥田　良三
42	55.10	上田　繁潔
43	59.10	上田　繁潔
44	63.10	上田　繁潔
45	平03.11	柿本　善也
46	07.11	柿本　善也
47	11.11	柿本　善也
48	15.11	柿本　善也
49	19.05	荒井　正吾
50	23.05	荒井　正吾

歴代東京事務所長

（敬称略）

昭24.01～	26.03	榊原　一彦
昭26.04～	27.08	久世　喜孝
昭27.08～	29.01	近山　正実
昭29.01～	33.12	榊原　一彦
昭33.12～	34.04	久世　喜孝
昭34.04～	37.10	岩根　一義
昭37.10～	55.03	稲田　忠幸
昭55.04～	59.03	田中喜代一
昭59.04～	平05.03	鈴木　泰雄
平05.04～	07.03	瀬川　郁淑
平07.04～	09.03	桂木　治雄
平09.04～	11.03	阪本　守
平11.04～	13.03	石橋　義徳
平13.04～	15.03	山澤　忠輝
平15.04～	17.03	中田　稔
平17.04～	20.03	川田　純央
平20.04～	22.03	影山　清
平22.04～	24.03	上田　龍嗣
平24.04～		増田　義人

※昭和24年1月東京都出張所設置
　昭和39年6月東京事務所に改称

大和健児
－東京奈良県人会 92 年の歩み－ （上）

（昭和６０年５月奈良新聞より）

「東京奈良人会」が今年で九十二年日を迎える。一世紀近くの間、大和を遠く離れた健児たちの心のよりどころとして、県人会の果たしてきた役割は大きい。このほど、空席となっていた会長も決まり、県人会は今新たな飛躍を図ろうとしている。駆け足で九十二年の歩みを追ってみた。

初代会長山田三良
高取出身の学士院院長
明治 26 年に旗揚げ

東京奈良県人会を語るとき、初代会長の山田三良の名前を抜きにしては考えられない。
日本学士院院長と文化日本の最高峰に君臨した山田は、明治二年十一月十八日、現在の高市郡高取町大字越智に生れた。高等小学校しか出ていない山田は独学で東京帝国大学（現東京大学）を日指したが、正規の学問を受けていないために受験することができなかった。
仕方なく東京専門学校（現早稲田大）に入った山田を待っていたのは、同校の創設者・大隈重信。おそらく大隈との出会いがなかったら、その後の山田はなかったかもしれない。いち早く山田の豊かな天分を見抜いた大隈はこう言った。「君の才能は日本のために生かされるべきだ。東大に行け」
明治二十九年七月、東京帝大法科大学英吉利法律学科を卒業した山田は、その天才ぶりをいかんなく発揮する。維新以来、日本は治外法権下にあったが、同法権撤廃のもととなった刑事および民事訴訟法の根幹を作成したのがこのころ。当時、山田は文部省の命を受けてフランス留学が決まっていたが、原案を書き上げたのが船の中だった。出来上がった原稿を受け取るために最後の寄留地香港まで駆逐艦が横浜港からついてきたというエピソードも残っている。現在、神奈川県葉山に住む息子の信吉（四八）は「頑固な人だった」と評し、また四十年近く県人会の幹事を務め、山田を良く知る辻田清・現副会長（七四）＝西吉野村＝は「学者肌の人はどちらかというと気むずかしい人が多いが、先生は気さくで決して威張らない人だった」と思い出を語る。
昭和四十年十二月十七日、九十六歳でこの世を去るまで数々の功績を残してきた山田が、「もともと奈良県民は土地柄か結束力が薄い。ここらで一つまとまろうじゃないか」と在京の人たちに呼び掛けて「東京大和会」（東京奈良県人会）を結成したのは明治二十六年十月のことだった。

大和健児
－東京奈良県人会 92 年のあゆみ－ （中）

木村初代防衛庁長官や岡本衆議院議員ら
固い結束、発展図る

結成当時の「東京大和会」の活動がどういう状況にあったのか、当時の生存者がいないので知る術（すべ）もないが、現副会長の辻田清は初代会長の山田三良に聞いた話として「全体で集まるのに加えて実業家同士の三水会、そして政治家、経済人の二金会などといって定期的に集まるグループがあったようです」会場はいつも谷善之丞（故人、東吉野村）創業の銀座の三笠会館か、目白台の椿山荘だった。
昭和二十三年十月、椿山荘での会合にはそうそうたる顔触れがそろっている。

会長の山田をはじめ、後に二代目会長となる初代防衛庁長官の木村篤太郎（五條市）、北海道新聞社長の東季彦（十津川村）、衆議院議員の岡本茂（天理市）、東京都総務局長（現在の副知事）の上平正治（川上村）、国学院大学教授の北岡寿逸（吉野町）、元第一銀行頭取の尾上登太郎（同）、経済通信社長の松本高情（五條市）ら。ほとんどが故人となっているが、写真からの表情には山田を中心とする「東京大和会」の結束力の固さをかいま見ることができる。

山田の後を継いだのが木村。昭和三十七年（当時七十七歳）から死去する五十七年まで実に二十年間務めた。吉田茂内閣の片腕として新憲法の作成などに死力を尽くしたのは周知の通り。日本剣道連盟会長でもあった故人をしのび、柳生の里には先月二十八日、銅像も完成した。

元衆議院議員で現副会長の木村剛輔（六七）は父をこう語る。「自分に厳しく、他人にはやさしい人だった。私がいうのも変だが、立派なおやじだった」「高齢だけに一部にはもうそろそろという声も出ましたが『会長は俺（おれ）しかいない』という感じで耳を貸しませんでした」（辻田）。古武士然としており、剛直な人だった。

「東京奈良県人会」と現在の名に代わったのも木村のころから。木村は「郷土を同じくする者は既に十年の知己に等しい。お互いに助け合って各分野において発展を」と、種々のグループを含め大同団結を図った。

大和健児
－東京奈良県人会 92 年のあゆみ－（下）

和をモットーに飛躍誓う
杉本氏を核に新体制

昭和五十七年八月四日、木村篤太郎を失った「東京奈良県人会」は、次期会長探しに苦慮した。年に一度の総会さえ開けないときもあった。事情を憂いた上田繁潔県知事は、当時の県東京事務所長の田中喜代一に「何とか活性化ができないものか」と内々に話し、このことが再建活動に大きな転機を与えることになった。

昭和五十八年には事務局も現在の千代田区平河町の県東京事務所に移り、代表役員制（参与会、当時七十六人）がとられた。しかし、まず何といっても新会長の人選だ。各界で活躍する数氏に絞って懇請が続けられた。しかし、あまりにも前の二人が偉大過ぎたこともあって難航した。

そんなとき、白羽の矢が立ったのが吉野郡大淀町出身の杉本一幸（六三）。日本橋に本店を持つ紳士既製服のトップメーカー、「オンワード樫山」の代表取締役副社長の杉本は、学歴こそ高小卒だが、苦労に苦労を重ねて今日の地位を築き上げた。

昭和五十四年には私財七億円を投じて杉本教育財団を設立、ふるさとの発展に寄附している。「前のお二人はもちろん自他ともに認める立派な方だったが、政治家ということもあって主義主張が前面に出るとソッポを向いてしまう人もいた。今度の杉本さんは実業家として苦労もしており、人の和を図るという点で人材を得た」の辻田清（現副会長）の言葉に代表されるように三代目会長に期待する声は大きい。

今月十八日、銀座のワシントン・アートで開かれた総会でのあいさつの中で杉本は「たくさんの立派な先輩がいる中で、大役をおおせつかることは身に余る光栄です。九十二年の伝統に誇りをもって一致団結して郷土の発展に寄与し、東京に奈良県人有りの意気を示しましょう」と力強く抱負を述べた。

今、「東京奈良県人会」は会長に杉本一幸、副会長に辻田清、木村剛輔、小泉元胤＝吉野郡吉野町＝の新体制で新たな第一歩を踏み出した。

（文中敬称略）

第１回郷土訪問旅行会（昭和６１年３月）催行報告

～ごく一部の抜粋～

（谷瀬の大吊橋）

バスを降りると昨日とは様変わりに強い風が谷あいを吹き抜けている。十津川には沢山の吊橋が懸っていると聞くが、谷瀬のものは其の規模に於て日本一といわれるだけあって、其の全長２９７m、高さ５４m、幅員２mというものである。この吊橋を渡ることは今回の旅行の目玉でもあり、対岸を少し右に下がった所には護良親王が潜居されたという黒木御所跡があるということだから、少し位いの風で渡らない手はないということに大方の意見が傾いた。

吊橋の左手前角には展望台を兼ねた観光土産店がある。最新の土木技術を駆使して建設された極めて堅固な吊橋である。下を流れる吉野川はコバルト色の美しい水をたたえて留まることがない。最初は５４mという高さを３００mも歩けるだろうかという心配をしていた人々も元気を出して渡る決心をしたが、何としても風が冷たく、そして思いのほか強いのに先ず吃驚してたじろぐ。最初に勇ましいのが二十人余りで渡り始めたが、強風に逆らいながらどんどん進む人、五分の一も行かずに引き返す人、途中で動けなくなる人、橋上にある人の脳裡を一瞬かすめ過ぎた思いは「こんな状態で本当に渡り切れるだろうか？　それとも無事に引き返すことができるだろうか？　さあこれは困ったことになったわい」という恐怖感ではなかっただろうか？　何しろ橋の中程では風速３０mを超え、瞬間的には或いはもっと上回っていたかも知れない。谷合を吹き渡る風を山瀬の風というのかどうか知らないが、松籟の音などという優雅なものでは決してない。「ヒュー、ヒュヒュヒュー、ヒュー」と猛烈な唸り声を伴って断続的に軀にドスンと当っては押し倒されそうになる。まるで風に意志があるかのように河上から下手に吹き渡る風の圧力に対抗して踏ん張っていると、すっと風が止む、そうすると今まで風と闘っていた自分の軀はたたらを踏んで泳ぐような具合になる。うっかり力を抜いていると次の風が襲って来て川下へ放り出されそうになる。イヤー怖いのなんのって一寸言葉にならない始末である。やっと向こう岸についたときは、顔面が硬直して直ぐには声も出せない。此の調子ではとても一般の方々には無理である。途中からはどうぞ私達の後に続く人がありませんようにと祈るような思いであった。それでも完全に渡り得た方は九名に達した。渡ることを断念した人達が心配していると気の毒だからと、県人会の小旗を高々と打ち振ったときに、初めて皆さんが無事であったことの安らぎを噛みしめたことであった。

（護良親王黒木御所跡）

対岸の突当りを右の方に少し下がったところに黒木御所跡がある。当地では丸太のことを黒木と呼ぶそうで、護良親王が隠れ住まれた館は山から切出したばかりの原木で作られた山小屋風の建物であったようだ。今は只其の旨を刻した石碑が玉垣に囲まれて二基建っているのみである。因に護良親王は後に倒幕の計が洩れて、北条勢に捕われ、鎌倉に移送され給うた後、土牢に幽閉され給い、後に御命を刺客により落させ給い現在は鎌倉宮内の御墓に鎮まって在わし、悲しい歴史の一ページとなって今に伝えられている。黒木御所跡で渡橋を果した人々集いて記念写真を撮ったが、平素は人品卑しからざる御仁も随分と哀れなり、まるで今しがた国境を越えて命からがら逃げて来た避難民さながらの態である。恐らくこの時居合わせた方々には一生を通じて忘れ得ない思い出の一つとして永く記憶されることであろう。

（往きと帰りはさま違い）

帰り道は、この先が測れなくて立ちすくんだ往路とは心の構えが違うせいか、同じ試練が待っているとはいえ既に経験者である。用心をして進めば何程のことやあるとの心意気で押し渡れば、先刻の半分にも当らない感じで全員無事帰還した。渡ることを断念した人々は私達の元気な姿を見て、良く

もご無事でと声を揃えてその蛮勇を褒めたり、貶したり、大騒ぎである。売店の展望室から渡橋を敢行した人々の成り行きを見守っていた人達の話によると、如何に堅固な構造とはいえ、注意深く見ているとそれはまるで日高川を阿修羅の如く泳ぎ渡る清姫の精を彷彿させるように吊橋は上下左右にうねり、のたうち回る大蛇さながらに見えて、とても正視するに耐えなかったという。吊橋の上をよろけながらやっとこさ歩いてきた者には想像もつかないことであった。兎にも角にも慎重な注意と、有らう限りの精魂を尽して、自然と闘うことの酷しさを身を以て知り得た、またとない機会であった。

最近の特記イベント

平城遷都１３００年記念祝典参加

平成２２年１０月８日、平城遷都１３００年祭のハイライトである記念祝典が天皇皇后両陛下ご出席の下、平城宮跡にて開催された。東京奈良県人会からは西会長が招待され、上田副会長、植嶋理事が随行した。

復元された第一次大極殿前に設けられた式典会場には世界５４カ国の政府代表、国内の政財界関係者約１７００名が出席、開会挨拶では荒井正吾知事が、都の造営は東アジア諸国から多くのことを学んだ成果であること、また２１世紀においては奈良県は東アジアの平和と繁栄に貢献してゆきたいと述べられ、会場からは大きな拍手がおこった。

天皇陛下はお言葉で、平城京に父祖の地として深いゆかりを感じるとされ、「桓武天皇の生母は続日本紀によれば百済の武寧王を始祖とする渡来人の子孫」と述べられ、皇室と古代朝鮮半島との深い縁を披露、「わが国の古くから伝わる文化を守り育ててきた奈良の人々の幸せを祈ります」と締めくくられた。

ステージでは平城京建都に貢献した藤原不比等に扮した狂言師野村万蔵さんはじめ、俳優市村正親さん、オペラ歌手の中島啓江さんらが楽劇を上演、華やかな往事の衣装を身に着けた演出に会場が包まれた。最後に日中韓の子供たちが「遷都１３００年宣言」を読み上げ、平和・共存共栄を誓い、ちょうど尖閣諸島問題で揺れ動くわが国をとりまく東アジアのあるべき姿を諭される場面でもあった。

平城遷都１３００年記念シンポジウム

平成２２年（2010 年）１１月１８日、「平城遷都 1300 年記念シンポジウム」を奈良県と共催の「ふるさと奈良の集い」の開催に合わせ、椿山荘で開催した。それぞれ奈良出身の識者でおられる東大寺長老上野道善氏、奈良県図書情報館館長の千田稔氏、シンクタンク・ソフィアバンク副代表の藤沢久美氏をお招きし、「１３００年後の今、奈良発展の鍵は」をテーマに論じていただき、上野長老からは「過去に感謝し未来に責任」、千田館長からは「奈良・まるごと大学」、藤沢様からは「世界をハングリーでない奈良の持つ新しい社会モデルへ」の提言を述べられ、「未来志向」で以て奈良を支えていくことが奈良発展の鍵との結論で閉会した。

（注）会報第２８号－平城遷都１３００年記念号－にて、詳細はご覧いただけます。

第一回奈良県人会全国大会

平城遷都１３００年記念の興奮いまだ冷めやらぬ２０１２年２月１０日、念願の第一回奈良県人会全国大会が、奈良市法華寺町の奈良ロイヤルホテルで開催された。

大会宣言

1．奈良県人会間の交流を一層推進します。
1．奈良県人会員と奈良との交流を推進します。
1．奈良に思いを寄せ、お互いに助け合い、絆を深めます。
1．奈良県人会を全国に、世界に、広めます。
1．様々な形で奈良の発展と郷土の文化の普及発展に貢献します。

大会宣言読上げ
（大阪奈良県人会中井会長）

初の全国大会とあって、国内の県人会ばかりでなく、世界の奈良県人会が絆を求めて集結した。その数３５０人、２階のホールは満席となった。全国大会参加を含めた東京奈良県人会郷土訪問旅行団１０数名は早朝東京駅に集結、京都駅からは近鉄に乗り換えて、１４時開催の会場へと駆けつけた。大会は相馬達雄・大会実行委員長（神戸奈良県人会会長）の挨拶に始まり、荒井正吾・奈良県知事の挨拶、国中憲治・奈良県議会議長の歓迎の言葉が続いた。こもごもに、「奈良は日本の始まり・・・」、「奈良は日本の発祥の地」、「平城京は日本の原点・・・」など、奈良の歴史の意義を強くアピールした。これとともに奈良の活力を世界に発信したい、というアピールも相次いだ。

当日は東京、東海、神戸、大阪の各県人会のほか、九州で会結成を準備中の九州県人会も加わった。さらに全国大会とあって海外からも多数が海を渡って参集した。ブラジルからは６人が参加、有北陽一ジョルジ会長が挨拶。また上海・奈良県人会の原田利明・前会長も挨拶した。このほか大連奈良県人会、ニューヨーク奈良“賢”人会からは３名が加わった。

続いて台風１２号の被災害地への見舞金３０万円が全国および世界の奈良県人会からとして、東京奈良県人会の木村忠夫副会長から荒井奈良県知事へ手渡された。

その後、各県人会の活動報告（東京は植嶋理事が担当）、最後は奈良県人会の相互の交流や絆を深めること、県人会を全国へ世界へ広めるという内容の五項目の大会宣言を大阪奈良県人会の中井政嗣会長の音頭で、全員が唱和して、１４時から始まった第１部はおわり、小休憩をはさみ第２部へと入った。

第２部は力強い十津川太鼓倶楽部による「鼓魂」、OSK 日本歌劇団の華やかな踊り、また「せんとくんと平成伎楽団」、宮川大助・花子のトークと歌、さらに女流書道家のパフォーマンスが続いた。有宗蘭園さんが壇上で書いた「絆」はこの大会のシンボルとして壇上に飾られた。

盛り沢山のイベントがあり、最後に堀井大阪県人会相談役の万歳三唱で、予定時間をかなりオーバーして、１８時、閉会した。

大会終了後、東京県人会一行は、春日大社等でおこなわれる「なら瑠璃絵」の鑑賞へ。吉野くず入りのトロリとしたココアジュースで体を温め、夜の大社を歩いた。１０万個の LED 電球が奈良の夜を照らした。猿沢池のほとりの宿舎猿沢荘に戻った一行は自己紹介をかねた食事の会を楽しんだ。この会には、奈良日々新聞の藤山純一社長や桂木元奈良県東京事務所長が加わり、楽しい奈良の夜を過ごした。

（注）会報第３０号より抜粋。
当日の模様は、ホームページの「奈良県の写真集」より、ご覧いただけます。

ふるさと奈良の集い

平成25年10月28日、東京奈良県人会創立120周年記念コンサートに続き、東京第一ホテル　ラ・ローズの間にて奈良県主催による「ふるさと奈良の集い」が開催されました。以下その概略（知事、県人会会長の開会挨拶部分）をご紹介します。

荒井正吾　奈良県知事

第６回目のふるさと奈良の集いを東京で開催させていただきました。本日は国会議員の皆様方、県会議員の皆様方、地元市町村長の皆様方、多く来ていただきました。またこの機会に色んな方と交流していただきたく存じます。

ご出身の市町村を中心に席を作って、そのように配置いたしましたので離れたところとか動きにくいところがあるかもしれませんが、名簿をご覧になって久しぶりだなとかちょっと関係ある業種だなと思ったら是非動いてご挨拶していただければと思います。

昨年のこの会ではJESCOの柗本さん――吉野町のご出身ですけれどもここで初めてお会いして、ベトナムで仕事をしているということで、今年の夏、ベトナムまで帯同して参りました。ベトナムで面白い事業をされておられて色んな見学、お世話をしていただいた方でございます。色んなきっかけが発生すると思って感謝申し上げております。

今日の料理には奈良の食材を使っております。それともう一つ、ふるさと納税というので東京県人会の方にこれまで1500万円程寄附を頂いておりまして、大変有り難く地元で使わせて頂いていますお礼を申し上げたいと思います。まだしてなかったなと思われる方々、ちょっと思い出していただいて、そんなに強要いたしませんけれども是非、よろしくお願いしたいと思います。

ごゆっくりしていただきたく存じます。本日はありがとうございました。

西与吏郎　東京奈良県人会会長

今年もふるさと奈良の集いがやって参りました。どうもお忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございます。

県人会も明治26年10月に高取出身の山田三良先生が結成されまして以来、今年120年を迎えました。皆様のご協力ご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。本日はこのホテルの４階で郷土出身の若手演奏家によ県人会創立120記念コンサートを開催致しました。県人会の未来の希望と輝きを感じさせる素晴らしい演奏でありました。

また、新たに設立しました県人会若手の会が活動を始めております。この10月13日に県事務所の協力を得まして上野公園において奈良県PRイベントを開催、大勢の人達で賑わいました。まるで上野の森は奈良県一色という大盛況でございました。このような県人会の活動も益々若い人達に頑張っていただいてふるさとの発展の為に今後も一層努力していきたいと考えております。

今日は本当にありがとうございました。最後の最後までご歓談いただきますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

平成26年東京奈良県人会新年賀詞交歓会のご報告

平成26年東京奈良県人会新年賀詞交歓会が去る2月4日、Sun－mi高松銀座7丁目店にて開催されました。ここでは、その講演会、懇親会の概要を報告します。

[会長挨拶]

西会長：今日はお寒い中、ご出席いただき誠にありがとうございます。何か遅い感じですが、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。昨年の10月には120周年記念で、県人会も記念コンサートや、若手の会も上野でふるさとのPRイベントなどの事業を行うことができました。これもひとえに皆さまのおかげだと感謝いたしております。

県人会も若い人がだんだんと増えてまいりまして、県人会に非常に関心を持っていただいております。これからも我々役員一同、よりよい県人会をつくっていくよう努力したいと思っております。

皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げまして、簡単ではありますが、挨拶と致します。どうもありがとうございました。

[講演会]

司会（植嶋副会長）：それではまず、講演会の部に入らせていただきます。本日は、今、首都圏直下型地震等で皆さまの関心の高いテーマ「あなたはどうしますか？　災害対策における心構え」と題して、みずほ総合研究所の相談部、主任コンサルタント・水野高太郎様をお招きしまして講演会を開催致します。それでは水野先生よろしくお願いします。

［講師略歴］1958年東京生まれ、1981年第一勧業銀行（現在みずほ銀行）に入行、厚生省外郭団体出向の後、企業オーナー、個人富裕層のプライベートバンキング等に従事。2013年から現職。

200年ごとにマグニチュード8クラスの地震

まず、過去にどんな地震があったのだろうということですが、関東大震災からさかのぼること220年前には元禄関東地震が起こっております。この元禄関東地震はマグニチュード8．5、関東大震災よりも大きいんですね。さらにその後ろにさかのぼっていくと、元禄関東地震から208年前の1495年、明応関東地震という地震が起きています。さらに1495年からさかのほること202年の1293年に永仁関東地震が起こっております。いずれもこれはマグニチュード8クラスの地震です。

ここで皆さん、エッ？　と思いませんでしたか。マグニチュード8クラスの地震がほぼ200年ごとに起きているんです。元禄関東地震から関東大震災の間、最初の約100年は平穏期、つまり大きな地震がない期間でした。それが過ぎると関東大震災クラスが来る直前にマグニチュード7クラスの地震が多発しております。

この事から何が言えるか。関東大震災から今年で91年目です。関東大震災以降この間、関東地方は大きな地震に見舞われておりません。つまり平穏期だったのです。ということはこれから関東大震災が200年サイクルで起こるとすれば、今後100年の間、マグニチュード7クラスの地震が多発して、行き着く先は関東大震災ということになります。

文部科学省地震調査研究推進本部というところで地震が発生する確率を発表しております。南関東でマグニチュード7クラスの地震が発生する確率は今後30年間で70％です。マグニチュード8クラス、つまり200年サイクルで起きてきた関東大震災クラスの地震が今後30年の間に起こる確率は、ゼロから2％とされています。従いましてマグニチュード8クラスは心配ないけれども、マグニチュード7クラスの地震は何時起きてもおかしくない状況であると言えます。

今回の想定では、関東地方で19ヶ所におけるマグニチュード7クラスの地震を想定していますが、その震度を合成すると、ほとんどの地域で震度6強以上の揺れとなっており、東京はどこにいても、大きな揺れを感じるということになります。想定された19ヶ所の地震の中でもいちばん被害が大きくなると予想されるのが、都心南部直下型地震になります。

建物の被害

地震による建物の被害は、実に61万戸の建物が焼失もしくは倒壊するとういうことになっております。

また、地震の人的被害については、2万3000人の方が亡くなると想定されています。

液状化現象

次に、地震では液状化現象というのが心配になります。東京都の地形は大きく分けて、洪積台地という古い地層で固い部分と、沖積低地という、氷河時代に氷河が流れて洪積台地の表面が削られ、削られた土砂がたまってできたところ、つまり地質学的に言いますと、地球の中で最も新しい地盤の地域に分けられます。沖積低地が新しいということは土地が締まっていない、柔らかいということです。そのまま液状化の危険度の高い地域になり、東京23区東部にお住まいの方については、液状化の対策も必要だということです。

津波

次に、地震で怖いものは、なんといっても津波でしょう。東京湾は津波が3m程度と言われております。逆に太平洋側つまり千葉県であるとか神奈川の西のほうは、10m以上の津波が来ると想定されております。なぜ東京湾は少ないのかというと、東京湾の入口に浦賀水道というのがあるのですが、浦賀水道の地形が津波を減衰する地形になっているためです。

東京都港湾局によりますと、東京湾の防潮堤は4m～8mで整備されています。従いまして防潮堤がきちっと機能すればこの被害はない。ところが東日本大震災のときに、水門が閉められなかったところが多発しております。それから堤防が決壊する、水門が決壊するという可能性もございます。もしそういうことになった場合には江東区のゼロメートル地帯では最大水深5mになると言われています。5m、つまり2階建ての2階にいても水没するので、3階建て以上の建物に避難しないといけないということになっています。

「防災」でなく「減災」

地震は避けられるものではありません。防ぎ切れるものではありません。防げるものは火事ですね。ところが地震に対して「防災」という点で人は無力になってしまいます。そこで、いつか必ず来るものであれば、万が一のときには少しでも被害を少なくするための準備をしようという、「減災」という言葉が阪神淡路大震災以降、生まれてきております。

まずどういう取組みをしたらいいのか。建物の耐震化です。そして家具の固定。それからレイアウトの変更です。家具が倒れたときに例えば扉のところに家具があったとします。そうすると家具が倒れることによって扉が開かなくなる。逃げられなくなるということもありますね。そういったことも考えて自宅やオフィスのレイアウトを見直しましょう。それから食糧等の準備ということですね。これを自助努力、「自助」と言います。

これをすることによって自宅における生活環境を確保し、先ほどの避難民720万人を1人でも

減らす、つまり社会的負荷を減らしていこうということが大切です。そしてこれを準備することによって皆さん一人ひとりが負傷者にならない、要救護者にならないということが必要です。この自助努力をすることによって初めて「共助」が可能になります。共助というのは共に助け合うということです。阪神淡路大震災のときに成人男性の何と80％が救助に協力したというアンケート結果が残っております。それが自分がけがをし、助けられる側に回っていたら助けることはできません。一人でもこういう自助努力を行って共助ができる態勢をとることが肝要ということになります。

内閣府の報告書では耐震化率の向上によって被害の軽減が大きく図れると言っております。

最悪のケースでは、倒壊家屋が17万5000棟、倒壊家屋による死者が1万1000人。これが耐震化率100％になりますと、倒壊家屋が何と2万7000棟、死者は1500人ということで、約9割弱も削減することができます。

建物の焼失についても同様です。これは最悪43万棟の焼失家屋、焼け死ぬ方が1万6000人、これを電気関係の出火防止をすることによって約半分になり、初期消火が成功した場合、何と9割以上の焼失家屋と死者を減らすことができます。つまり火災による死者は何と800人まで減らすことができます。

「家族防災の日」

さて皆さん、万が一のときのためにどういう準備をしたらいいのかということですが、まず、「家族防災の日」を決めましょう。まず緊急時の連絡方法を皆さんで決めてください。緊急時の連絡方法、地震のときには電話が非常につながりにくくなります。そうすると伝言ダイヤルであるとか伝言掲示板というのが携帯電話会社各社さんでやられていますので、一度利用してみてください。ドコモでは1日と15日はフリーで、実験的にお使いになることができます。各携帯電話の会社のサイトに行けば、そういうアナウンスメントがあると思いますので、家族防災の日に、ぜひシミュレーションをしていただければと思います。

そして家族一人ひとりの役割分担を決める。火の元を確かめる人、ブレーカーを落とす人、高齢者や若年者の係り、準備した非常持出し品を持つ係りなどです。逃げるときに電気のブレーカーを落としていくのは、電気復旧後の電気器具からの火災を未然に防止するためです。阪神淡路のときには3日目くらいから火事が多発し始めました。これはなぜかというと、電気が通電することによって今まで壊れていた電気器具に電気が流れていなかったものが、電気が流れることによってそこから火事が起こったということです。たとえば水槽のヒーターです。水がなくなってしまっています。そうするとヒーターが加熱して、その上に落ちたいろいろなものが加熱して燃えだして火災になるということが多発しました。あとは自宅の危険な場所、それから避難場所への経路等々を皆さんでご確認いただくというようなことで、ぜひ家族防災の日を決めていたただければと思います。

職場での被災

職場で被災した場合、無理な帰宅は避けてください。平成25年の4月に東京都帰宅困難者対策条例という条例が施行されました。その条例では、各企業に最低でも3日分の食糧を備蓄して社内に留まり様子を見るようにということになっております。

それから皆さん、もしビルで地震に遭われたらどうしますか。まずビルで安全なところというと、天井のビルトインエアコンが落ちてきたり、壁から作り付けの棚が倒れてきたりということがありますので、まずはそういったところを避けて避難するということが肝要かと思います。一般的な構造の建物では、エレベーターホールや階段などが、比較的柱が密に立てられていて強度があり、安全といわれています。デパートや家電量販店など商業施設でもし地震に遭われたら、回りからいろいろなものが倒れてきます。いちばん安全なのはレジの近辺、ここはいろいろ倒れてくるものがありません。従って量販店、商業施設で地震にあったらレジの近辺か、あるいはエ

レベーターホール等に移動することがよろしいかと思います。もしエレベーターに乗っていたら、直ちに全ての階のボタンを押して最寄の階で停止させて、エレベーターから外にでます。万が一閉じ込められてしまった場合は、エレベーターの中で救助を待ちましょう。最近では、非常用グッズを格納しているエレベーターも見かけられるようになりました。

路上を歩いていたら、まず建物や塀など落下物や倒壊する危険性のあるものから離れます。もし雑誌などを持っていたら、開いて頭の上にかぶせることも有効です。

外出先で被災した場合、もし車を運転中であったらどうしましょう。路肩に寄せてまずは車のラジオで情報を収集するということが大切だと思います。もし車を置いて逃げるのであれば必ずキーは残して、ドアはロックせずに避難します。それが救助の邪魔にならないといった配慮をしてください。

皆さん、今日ここで首都直下型地震に遭遇したとしましょう。ここから自宅に帰宅することも能わず、ここでしばらく避難生活を送らなければいけないとしましょう。今の備えで十分ですか？

考えるほどに、あれが欲しい、あれを準備しておけばよかった、こうしたらよかった……と次々に思い浮かぶはずです。その思いついたことを一つ一つ実践していただき、減災と取組んでいただければ幸いでございます。ご清聴ありがとうございました。

[懇親会]　～ 東京奈良県人会新年賀詞交歓会 ～

（増田東京奈良県事務所長の乾杯のご発声により賀詞交歓会の部が開会、議会の合い間を縫って駆けつけていただきました奥野信亮、髙市早苗、小林茂樹、堀井巌の各議員からのご挨拶）

司会（植嶋副会長）：それでは、これから奈良フェスタで大活躍され、これからの県人会を支えていただく若手の会の皆様にご挨拶を頂きたいと思います。

魚里怜那さん（奈良市出身）：奈良テレビ放送の魚里と申します。皆さんにはいつもお世話になっておりまして、去年ですかね。弊社も若手の会に参加させていただくようになりまして、昨年の「奈良フェスタイン上野公園」では取材のほうもさせていただきまして、もっともっと奈良のことを東京に広めていきたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

近藤綾子さん（奈良市出身）：先月から若手の会に参加させていただきました近藤と申します。中高と帝塚山学園に通っておりました。今奈良のお酒を頂いて、奈良にもおいしいお酒があったんだとすごく嬉しく思います。これからもよろしくお願いいたします。

田中義和さん（奈良市出身）：奈良テレビ放送田中と申します。いつもお世話になっております。奈良テレビでも奈良フェスタさんとかに取材などして、東京から奈良を発信していくというところで頑張っていければなと思っております。今後若手の会を通じていろいろ取り組んでいこうと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

藤本和大さん（大淀町出身）：去年の10月には皆さんの温かいご支援を頂きまして、「奈良フェスタ」を無事終えることができました。結果としては80人のボランティアが朝6時半から夜8時半までみんなで汗を流しまして、かなり奈良のPRができたと思います。次回は5年後にはまたしたいなとは思っているのですが、その間にさっきのキトラ古墳とか。キトラ古墳も森川村長ですよね。森川村長のほうから、「イベントを何かやってくれないか」と頼まれていますが、そんな折がありましたら、皆さんの温かい寄付を、またよろしくお願いします。

松岡佐知子さん（生駒市出身）：弁護士の松岡と申します。今日初めて奈良のこの県人会に参加させていただきました。実は弁護士になりたてホヤホヤでございまして、12月に登録したばかりなんです。落ち着いたところでそろそろ奈良のことを思い出したいなあと思って調べてみたら、県人会というのがあるということを知りましたので、ぜひ参加させていただこうと思ってまいりました。

まだ右も左も分かりませんが、これから本当に奈良の発展、発展といいますよりは、脈々と受け継がれてきた歴史を発信していくのが大事なのかなと思いますので、そこに少しでもお力になれたらいいなと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

松本昌之さん：（広陵町出身）：私も昨年奈良フェスタのほうにいろいろ関わらせていただきました。私は弁護士ですが会計担当をさせていただきまして、皆さまから頂いたご寄付の入金の記帳をするために、南都銀行のほうに何度となく足を運ばせていただき、記帳をするたびに皆さまの貴重なご寄付がありまして、通帳の記入欄がどんどん増えていくのを非常に心強く感じておりました。これからも皆さまの温かいご支援があってこそ奈良フェスタが成功したと思います。若手の会も藤本さんは5年後と言いましたけれど、出来ればもう少し早く2回目を実現したいなと思っておりますので、皆さまのご協力、これからもよろしくお願いいたします。

森田文子さん（奈良市出身）：森田文子と申します。若手の会とは言いましても、本当はもうちょっとみんなのお母さんのつもりで入れていただきました。あと奈良フェスタでは非公認の雪丸くんのマネージャーをさせていただきました。また何かあったらみんなでつくり上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは初参加の三浦様、自己紹介を兼ねてご挨拶いただけますか。

三浦性暁さん（吉野郡出身）：初めてこの奈良県人会に参加させていただきました。吉野郡出身の三浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。うちは東京の西のほう、多摩市というところで生活をさせていただいております。見ていただいたらちょっと分かると思いますが、何の職業だと思いますか。あまりいい印象はないかと思いますが、実は浄土真宗本願寺派の僧侶をしております。今多摩市というところでお寺を一カ寺建てたいと。まだ門徒は誰もいません。ゼロからの出発ですが一人でも多くの人に仏様の教えを伝えたい、温かい心を伝えたいという思いで東京に出てまいりました。ぜひともこれを機会に、皆さま方のご理解と温かい心に包まれながら活動を進めたいと思いますので、私事をお話しして失礼でしたがぜひともお引き回しいただきますよう、よろしくお願いいたします。失礼いたしました。

司会：ここで県人会からご連絡事項がございます。東京奈良県人会では今後の事業展開の利便性向上等の観点から、現在、法人化を検討しております。次回総会には皆様にお諮りしたいと思っておりますのでご理解とご支援お願いいたします。

（養徳学舎の稲田舎監から寮生の紹介、寮生の挨拶に続き菅野谷監事の中締めにて散会）

奈良まほろば館からのお知らせ

奈良県人会の皆様には、平素から奈良まほろば館の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年４月で５周年を迎えた奈良まほろば館は、大和野菜などの生鮮食料品の品揃えが充実し、リニューアルされました。また、近く大型のモニターを導入して、映像による奈良の魅力を首都圏で発信してまいります。

なお、今年度上半期に予定している主なイベント等は下記のとおりです。

皆さまのご来館をお待ち申し上げております。

26年度奈良まほろば館　上半期の予定（４月～９月）

4月　開館５周年記念イベント
薬師寺の魅力と所蔵品等を紹介
「法隆寺展」（東京国立博物館）の紹介

5月　橿原考古学研究所附属博物館（春季特別展）ブリーフガイド
写真展「私がとらえた大和の民俗」（民俗博物館）

6月　金峯山寺の「蛙飛び」行事等を紹介

7月　明日香村～日本の始まりの地を感じる～（明日香村）
「魅力満載！！大和高原」（大和高原観光振興協議会）
橿原考古学研究所附属博物館（速報展）ブリーフガイド
奈良県景観資産パネル展

8月　「記紀・万葉でたどる奈良」パネル展
纒向遺跡・オオヤマト古墳群等の紹介（桜井市・天理市）

9月　宇陀の記紀万葉に関する展示と観光スポット紹介（宇陀市）
世界遺産吉野大峯展（吉野町）

このほかにも、「南都法話会」、「聖徳太子に学ぶ会」、「奈良・シルクロードの会」、万葉文化館東京講座、日本のはじまり連続セミナーといった講演会や、写経教室などの文化講座を実施します。

※今後の状況により変更・中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。
また、詳細情報や申込み等は奈良まほろば館のホームページをご覧いただくか電話でお問い合わせください。　http://www. mahoroba-kan. jp/　電話：03－3516－3931

【大和伝統野菜のご紹介】

奈良まほろば館では、旬の大和伝統野菜を産地直送により、首都圏の皆様にご紹介しています。

「大和伝統野菜」とは、戦前から奈良県内での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により「味、香り、形態、来歴」などに特徴を持つものです。

今回は、お客様より特にご好評を得ている２種類の大和伝統野菜をご紹介します。

是非ご来館のうえ、一度ご賞味いただければ幸いです。

○大和丸なす

つやのある紫黒色でヘタに太いとげのあるのが特徴。肉質はよくしまり、煮くずれしにくく、焼いても炊いてもしっかりとした食感がある。

○大和まな

葉は大根葉に似た切れ込みがあり、濃緑色、肉質は柔らかく、甘みに富んでいる。油とり用に栽培されていたものが、漬け菜として利用されるようになった。

ふるさとコーナー

歴史と文化がくらしの中に息づく“新斑鳩の里”　斑鳩町

斑鳩町は、飛鳥時代に聖徳太子が斑鳩に斑鳩宮を造営し、法隆寺を建立したことにより、仏教文化の中心地として歴史的に一躍脚光を浴びました。また、日本で初めて世界文化遺産に登録されている「法隆寺地域の仏教建造物」や和歌に詠われている竜田川や三室山など、斑鳩町の古い歴史とのどかな自然が織り成す1400年の息吹を感じることができる奈良県下有数の観光地であります。

特に飛鳥時代における聖徳太子の上宮王家または法隆寺等の古代寺院に関わる歴史は、その後の斑鳩町の形成において、最も影響を与えた、重要な歴史的背景であります。

法隆寺では、仏教法会として古くから「伎楽」や「舞楽」が行われたことは、法隆寺に保存されている飛鳥時代渡来の伎楽面や奈良・平安時代の多くの舞楽面によって知ることができ、平安時代に発生した「猿楽」と「田楽」は、法隆寺諸行事でも盛んに演じられてきました。鎌倉時代に歌舞劇が生まれ「能」、「狂言」として姿を見せ始め、法隆寺に仕えた猿楽座である坂戸座を源流とする流派は、坂戸孫太郎氏勝を流祖とし、室町時代の初めには、春日興福寺に勤仕する大和猿楽四座の一つとなり、のちに金剛座、そして現在の金剛流へと発展しました。能「金剛流」の拠点は、京都にあり、また法隆寺に奉納される舞楽・雅楽は奈良の南都学所からの出仕によりますが、これらの発祥の地であることにちなみ、金剛流の里帰り公演として、毎年9月22日に上宮遺跡公園で「観月祭」を行っています。

また、飛鳥時代から続く様々な伝統行事が連綿と受け継がれてきており、なかでも春を呼ぶ「鬼追式」や、聖徳太子を偲ぶ「お会式」、太子教学を広める「法隆寺夏季大学」などは、地域の人々に支えられ、法隆寺を舞台にした仏教行事であるとともに、斑鳩の四季の風物詩となっています。

平成26年2月14日には、「斑鳩町歴史的風致維持向上計画」が国から認定され、奈良県下の市町村では初めてであり、今日まで引き継がれてきた斑鳩町の歴史や文化、それらを反映した人々の活動を将来へとつないでいく計画となっております。この計画を着実にすすめていくことが、斑鳩町の新しい魅力をつくり出し、斑鳩町らしい「歴史まちづくり・観光まちづくり」が実現でき、新たな観光客やリピーターの確保につながっていくことと考えております。また、斑鳩は伊勢・飛鳥・奈良・京都・大阪・神戸という日本史の舞台を時代の流れに沿って結ぶ「歴史街道」のルート上にあり、町内の豊富な歴史文化資源と自然資源が織り成す「斑鳩の里」をゆっくりと巡るために、「歴史街道散策ルート」として6つのコースを設定していますので、特色ある様々な歴史の深みを味わう斑鳩旅をしてみてはいかがでしょうか。観光シーズンには、正岡子規の代表句である「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」からイメージした、斑鳩町マスコットキャラクター「パゴちゃん」が法隆寺門前などで観光客をお出迎えします。

ふるさとコーナー

自然・歴史と街が共存する生駒市

東京スカイツリー（高さ634m）からの展望に感激された方には是非、生駒市に来ていただけたらと思います。生駒山は標高642mで、最新のエレベーターで速くはいけませんが、日本で一番最初に営業した（1918年）ケーブルカー（ブルとミケという動物型でこどもさんに大人気）でゆっくり行くも良し、近鉄生駒駅からハイキングで1時間美味しい空気を吸って上ると、素晴らしい眺望が皆様を待っています。信貴生駒スカイラインからの夜景がまたきれいでデートスポットとしておすすめです。

生駒山の中腹には、宝山寺というお寺があります。山の中腹に素晴らしい伽藍を見るととても驚かれるかもしれません。外国の方には石段の参道や岩肌に鎮座する仏像が大変人気があるところです。古いねたで恐縮ですが、「トイレの神様」ならぬ「トイレの仏様」もおられます。9月は生駒聖天万灯会という行事があり宝山寺境内、参道を数多くの行灯が照らしとても幻想的です。12月1日には、大根焚きという行事もあります。真夜中から始まりますが宝山寺味噌で食べる大根は美味しいです。生駒山の山頂には、生駒山上遊園地があり現役では日本最古の大型遊戯施設の飛行塔があります。

生駒市には、茶道をされている方ならご存知かと思いますが、お茶を点てるときに使う茶筌の産地の高山地域があります。高山茶筌は、国の伝統的工芸品に指定されています。去る3月2日には茶筌感謝祭が行われ、茶筌供養、お茶席、古い茶筌と新しい茶筌の交換（お弁当付で2,000円）、茶筌作り体験（2,000円）などがあり、参加された方には茶筌のさとを実感いただけるものでした。

NHKで東大寺大仏の修復と大仏殿の再建に公慶上人が勧進を集めて尽力したことを放送されていました。高山地域を支配していた鷹山氏の子孫で、茶筌供養の会場の法楽寺と縁のある方です。

歴史的人物といえば、奈良時代に活躍した名僧行基のお墓があります。東大寺建立に貢献した人で、近鉄奈良駅の陶器の行基像前が待合わせ場所になっています。民衆への布教にとどまらず橋、ため池などの土木工事にも活躍した方です。その行基を尊敬しハンセン病や身体に障害のある方の救済活動に身を捧げた鎌倉時代の名僧忍性（にんしょう）のお墓も行基のお墓の近くにあります。

是非皆様に見ていただきたい伝統行事があります。往馬大社の火取り行事（火祭り）です。10月の体育の日の前日の日曜日に行われます。神事が粛々と行われ、最後に若い人が2人、地元の期待を集めるなか、松明に火をつけて競争するというものですが、連綿と続く行事があるということはとても誇らしく思います。

暗峠（くらがりとうげ）という峠をご存知でしょうか。電気の無い峠ではなく、奈良時代から難波と奈良を結ぶ最短の道でもあり、江戸時代には、お伊勢参りの道「伊勢本街道」として多くの人が歩きました。松尾芭蕉が大阪に行くときに暗峠を通り、大阪で亡くなったのですが、最後の旅の通られた峠でもあります。しかし、なんと行っても有名なのは日本一？急勾配の坂道で、自転車で足をつかずに上れるかとか、こんな国道があるとかテレビ番組にも時々取り上げられる隠れた名所です。峠付近や南生駒駅に向かう街道沿いには飲食店もあり何度でも来たくなるところだと思います。

ここまで、読んでいただいた方で、是非行ってみたい、行くだけでなく話しも聞きたいという方がおられれば、生駒市観光協会にご連絡いただければ「生駒市観光ボランティアガイドの会」のメンバーがおもてなしの心で皆様をご案内いたします。費用は無料です。

参与会など

昨年12月12日（木）　恒例の年末参与会が、都道府県会館最上階のレストラン「エルム」にて開催されました。20名の参与・賛助会員の参加を得て、上田副会長の司会、西会長のご挨拶と乾杯のご発声を似て開会しました。永田町の官庁街でも最上階に位置する当会場からは、赤坂方面の夜景などが一望でき、趣向を変えた雰囲気に懇談も和気藹藹の内に進み、最後に岡村印刷工業吉村さんの中締めにてお開きとなりました。

お　知　ら　せ

□奈良県東京事務所人事異動（平成26年４月）

［転出］

東京事務所長　増田義人　→　県土マネジメント部　次長
東京事務所副所長　岡田充弘　→　高等技術専門校長
東京事務所行政課長　今仲進　→　知事公室　国際課課長補佐
東京事務所　知的研究活動推進グループ　主査　藤村芳宏　→　観光プロモーション課　主査
東京事務所　知的研究活動推進グループ　主査　車谷雅美　→　長寿社会課　主査
東京事務所　情報発信課　主査　中野律也　→　観光マーケティング課　係長

［転入］

東京事務所長　上田　博文（くらし創造部　協働推進課長）
東京事務所副所長　森本　光博（総務部　総務厚生センター所長補佐）
東京事務所行政課長　山本　恭之（くらし創造部　スポーツ振興課課長補佐）
東京事務所知的研究活動推進グループ　調整員　松原　悦代（知事公室　統計課　生活統計係長）
東京事務所　情報発信課　主任主事　御池　友里子（教育委員会　保健体育課）

□物故会員（平成25年４月以降にお知らせいただいた方）

延秀樹（防衛省）、 戸田順之助（戸田建設名誉会長）、松本留吉（マツモトグループ会長）

□新会員

辰巳昌良（大和郡山市）、西川悠貴（御所市）、近藤綾子（奈良市）、松岡佐知子（生駒市）、
豊　有規子（五條市）、瀬岡良雄（五條市）、三浦性暁（吉野郡）、古川誠也（奈良市）
鈴木文子（生駒市）、今西啓之（宇陀市）、川上千佳（奈良女子大学大学院）、村本吉弘（広陵町）

□平成26年度総会・懇親会開催日時・会場決定

平成26年度総会・懇親会は、平成26年5月28日（水）18時から「Ｓｕｎ－ｍｉ　高松銀座7丁目店で開催することが、３月25日役員会で決定されました。今回の総会では、県人会の法人化について皆様にお諮りする重要な総会となります。

120年間の感謝を込めて「ありがとうございました」

東京奈良県人会だより　創立120周年記念号（34）

2014（平成26年）年4月30日　発行

発行人　　／西　与吏郎
編集・発行所／東京奈良県人会
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
奈良県東京事務所内
TEL 03-5210-2838
URL：http://www.tkynarakenjinkai.com/index.htm
印刷・製本／望月印刷株式会社

© The nara Furusato Society of Tokyo inc. 2014. Printed in Japan

編集後記

平成２５年は、明治２６年と同じ「癸巳」（「みずのとみ」とも「きし」とも読む）にあたる。東京奈良県人会は、明治２６年に発足してから２度目の還暦を迎えた。

資料の「１２０年のあゆみ」は、平成１５年５月刊行の「１１０年のあゆみ」をベースにし、その一部を割愛しつつ、その後の県人会活動の記録を付け加えたものである。ただし、「１１０年のあゆみ」に収録されていた写真の資料が入手できないため、ここに再録できないのが残念である。

編集にあたっては、奈良県東京事務所スタッフ各位ほか多数の方々のご協力をいただいた。ここに感謝の意を表します。

この記録が、今後の東京奈良県人会のいっそうの発展にむけて、その活動を進める上での参考になれば幸いである。

東京奈良県人会事務局